

## はじめに

近年、グローバル化や情報化の進展とともに、社会が急激に変容する中で、子供たちを取り巻く環境も大きく変化し、それに伴い児童生徒の健康課題も多様化、複雑化しています。このような健康課題の解決を図るためにも学校における健康教育は重要な役割を担っています。

がんについては、生涯のうち二人に一人がかかるといわれる中、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は、まだまだ不十分であり課題であると指摘されております。この課題解決のためには、学校教育を通じて、がんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができる児童生徒を育成することが必要であります。

また、埼玉県がん対策推進条例が平成25年12月24日に公布・施行され、その中でも、学校において、がんの予防の推進を図るため、児童生徒ががんに関する正しい知識について理解を深めるための教育に関する施策が講じられ、学校における健康教育において、がんを取り上げた教育を推進することは、非常に重要であると考えております。

このような点から、埼玉県教育委員会では平成27年度から、文部科学省の委託事業を受け、「がん教育総合支援事業」を実施しております。

具体的な取組としては、学識経験者、がん専門医、がん経験者を含めた「がん教育推進連絡協議会」を立ち上げ、本県のがん教育の推進に向けて指導・助言をいただきながら、教職員を対象とした「がん教育指導者研修会」や小学校・中学校・高等学校のモデル校における「がん教育授業研究会」を開催いたしました。

本報告書は、「がん教育総合支援事業」における平成30年度の取組の概要や成果等についてまとめております。すべての学校において、掲載しております指導実践例等を活用していただき、教職員の共通理解の下、家庭や地域の専門機関等と連携を図りながら、がん教育の充実が図られることを期待します。

結びに、本事業の円滑な推進に御尽力いただきました、一般社団法人埼玉県医師会、埼玉県小学校校長会、埼玉県中学校長会、埼玉県高等学校長協会、さらには授業を御提供くださいました久喜市教育委員会、久喜市立菖蒲小学校、久喜市立三箇小学校、鶴ヶ島市教育委員会、鶴ヶ島市立南中学校、県立飯能高等学校をはじめ各関係機関、団体の皆様に深く感謝申し上げます、御礼とさせていただきます。

平成31年2月

埼玉県教育局県立学校部保健体育課長  
伊藤 治也

# 目 次

## I 平成30年度埼玉県「がん教育総合支援事業」

1	趣旨	1
2	事業内容	1
3	実施内容	1
4	他部局・他機関との連携	3
5	事業の成果	3
6	課題	5
7	平成31年度の事業について	5

## II 平成30年度埼玉県がん教育指導者研修会について… 7

## III 平成30年度埼玉県がん教育授業研究会

1	久喜市立菖蒲小学校	18
2	鶴ヶ島市立南中学校	26
3	県立飯能高等学校	40

## IV 平成30年度埼玉県がん教育推進連絡協議会について

1	がん教育推進連絡協議会設置要綱	49
2	がん教育推進連絡協議会委員名簿	52
3	がん教育授業検討委員名簿	52

# I 平成30年度 埼玉県「がん教育総合支援事業」について

## 1 趣 旨

学校におけるがん教育の充実を図るためには、がんに関する正しい知識と正しい認識、命の大切さについて正しく理解させ、深めることが必要であることから、本県では、学校におけるがん教育の推進を図るため、文部科学省委託「がん教育総合支援事業」を実施する。

学識経験者や医療関係者等を含めた「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育に関する計画」の作成等に対し指導・助言を行うことで、学校におけるより効果的ながん教育の在り方について検討を行っていく。

## 2 事業内容

- (1) がん教育推進連絡協議会の開催
- (2) がん教育指導者研修会の開催
- (3) がん教育授業研究会の開催

## 3 実施内容

- (1) 連絡協議会について（年2回開催）

がん教育の推進を図るための「がん教育に関する計画」に対し指導・助言を行

### ア 第1回協議会（がん教育の推進に向けた計画の検討）

日時 平成30年7月13日（金）14：00～ 知事公館 中会議室

- 「がん教育に関する計画」の作成・検討
  - ・学校におけるがん教育の課題の把握
  - ・がん教育に関する支援体制と支援方針の協議
- 「がん教育指導者研修会」について
- 「がん教育授業研究会」について
- 外部講師との連携について

### イ 第2回協議会（がん教育に関する計画の検証・成果報告）

日時 平成31年1月11日（金）

- 「がん教育指導者研修会」について
- 「がん教育授業研究会」について
- 効果の検証

※ がん教育推進連絡協議会に報告された実施結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会、県立学校等へ配布

- (2) がん教育指導者研修会について

学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動ができる児童生徒を育成し、がん教育を推進していく。

教職員を対象とした「がん教育指導者研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方について研修を行う。

ア 日 時 平成30年10月12日(金) 13:20～  
イ 会 場 埼玉会館 大ホール  
ウ 対 象 公立小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の管理職及び教職員  
(体育・保健体育科教諭、養護教諭、保健主事等)  
市町村教育委員会の指導主事 等

エ 内 容

(ア) 行政説明 県教育局県立学校部保健体育課

(イ) 実践発表 平成29年度モデル校

小学校実践校	ときがわ町立玉川小学校	能仲 和歌子	教諭
中学校実践校	上尾市立西中学校	坂本 友美	教諭
	上尾市立東小学校	村 ふみ	養護教諭
高等学校実践校	県立大宮東高等学校	齋藤 優気	教諭

(ウ) 講演 「学校におけるがん教育の展開」

—子どもの学びを組織する保健授業のデザイン—

講師 埼玉大学教育学部 准教授 七木田 文彦 氏

(3) がん教育授業研究会について

小学校、中学校、高等学校のモデル校において「がん教育授業研究会」を開催し、効果的な指導方法の検討と授業モデルの普及と指導参考資料の作成を行う。

授業研究会 テーマ 「保健教育におけるがん教育の効果的な進め方について」

指導内容

- ア がんとは、がんの要因
- イ がんの種類とその経過
- ウ 我が国のがんの状況
- エ がんの予防
- オ がんの早期発見・がん検診
- カ がんの治療法
- キ がん治療における緩和ケア
- ク がん患者の生活の質
- ケ がん患者への理解と共生

ア 小学校授業研究会

(ア) 日 時 平成30年11月2日(金)

(イ) 参加者 小学校教職員(教諭、養護教諭、保健主事等)、  
県立特別支援学校教職員及び指導主事

(ウ) 会 場 久喜市立菖蒲小学校

(エ) 授業者 小島 宏之 教諭

(オ) 題 材 特別活動 第6学年 「健康と命の大切さ」  
カ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成

(カ) 準備検討会 平成30年10月23日(火)(授業検討委員会小学校部会)  
久喜市立三箇小学校

イ 中学校授業研究会

(ア) 日 時 平成30年11月13日(火)

(イ) 参加者 中学校教職員

- (保健体育科、養護教諭、保健主事等)、  
 県立特別支援学校教職員、及び指導主事
- (ウ) 会 場 鶴ヶ島市立南中学校
- (エ) 授業者 忍田 友子 教諭  
 高沢 聖子 養護教諭
- (オ) 単 元 保健分野 第3学年「(4) 健康な生活と疾病の予防」  
 イ 生活行動・生活習慣と健康
- (カ) 準備検討会 平成30年10月30日(火)(授業検討委員会中学校部会)

#### ウ 高等学校授業研究会

- (ア) 日 時 平成30年11月27日(火)
- (イ) 参加者 高等学校・特別支援学校教職員  
 (保健体育科、養護教諭、保健主事等)
- (ウ) 会 場 県立飯能高等学校
- (エ) 授業者 梅田 直希 教諭
- (オ) 単 元 科目保健 第2学年 (2)「生涯を通じる健康」  
 イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関
- (カ) 準備検討会 平成30年11月20日(火)(授業検討委員会高等学校部会)

#### (4) 効果的な指導方法の実践研究

- ・発達の段階に応じた効果的ながんに関する指導を行うための指導方法の実践研究  
 (「がん教育」における小・中・高の系統的な保健教育の実践研究を行う。)
- ・教科等横断的ながん教育の提案
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

## 4 他部局・他機関との連携

(1) 保健医療部疾病対策課が実施している「出前講座」において連携を図る。

(2) 埼玉県がん教育外部指導者研修会の開催(予定)

ア 日 時 平成31年3月22日(金)

イ 参加者 医師、がん経験者 等

ウ 内 容 外部講師によるがん教育の実施にあたっての留意事項及び効果的な  
 進め方等

(3) 埼玉医科大学総合医療センター SMCがん教育セミナー 後援

ア 日 時 平成30年7月31日(火)

イ 会 場 かわごえクリニック

ウ 内 容 講義(授業実践の紹介)、グループワーク

## 5 事業の成果

学校におけるがん教育の充実を図るためには、がんに関する正しい知識と正しい認識、命の大切さについて正しく理解させ、深めることが必要であることから、学識経験者や医療関係者等を含めた「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育に関する計画」の作成等に対し指導・助言を行うことで、学校におけるより効果的ながん教育の在り方について理解を深め、県内への啓発を図ることができた。

(1) 「がん教育」指導者研修会

- ア がんに関する指導に携わる教職員のがんに対する正しい知識と意識の向上、及び学校におけるがんに関する指導の充実を図るための研修会を実施したことで、がん教育の必要性が理解され、実践例や指導教材等の普及啓発ができた。
- イ 行政説明の中で、学校におけるがんに関する内容の教育課程への位置付け例を挙げ、学校におけるがん教育の具体的な方向性を示すことができた。
- ウ 埼玉大学教育学部准教授 七木田文彦氏による講演「学校におけるがん教育の展開」—子どもの学びを組織する保健授業のデザイン—により、学校におけるがん教育の考え方、進め方について理解を深めることができた。

(2) 授業研究会について

- ア 授業検討委員会では、発達の段階に応じた適切な指導の在り方について検討を重ね、授業研究会で効果的な指導方法について提案できた。また、充実した研究協議を行うことができた。
- イ モデル校として新学習指導要領の全面実施に向けてがん教育を進めることができるよう、保健体育の保健分野、科目保健で授業案を検討することができた。その結果、各学校での実践の参考となる指導案及びワークシート等の指導資料を作成することができた。
- ウ 文部科学省作成の指導教材参考資料を活用した授業展開を検討し、普及・推進を図ることができた。
- エ 小学校のモデル校では、3時間扱いでがん教育を行った。1時間目に体育の保健領域で「病気の予防」を学習し、2時間目に道徳の時間でがん経験者のお話を聞き、がんと向き合う人との共生を考えた。さらに、3時間目の特別活動（学級活動）では、「がんについて調べ、健康のために自分ができることを考えよう」というねらいで授業を行うことで、がんについての理解がより深められた。また、教科等横断的な授業実践を示すことができた。
- オ 中学校のモデル校では、保健分野の生活習慣病の予防と関連させてがんの発生活要因と予防について正しい知識を習得した。がんについての調べ学習や、精選された資料、グループでの話し合い活動を通して、がんに対する理解を深めることができた。さらにその授業を受けて、特別活動（学級活動）において、がん専門医を外部講師に招き、自他の健康と命の大切さについて学ぶことができた。
- カ 高等学校のモデル校では、生活習慣病の予防の中での扱いでなく、地域の保健・医療機関の活用のなかで、がん検診の現状、費用、種類などを学習するとともに、早期発見の重要性について理解を深める授業実践となった。また、自分が住んでいる地域の保健・医療に関する取組を知ることで、身近な問題としてとらえることができた。

(3) 外部機関・外部講師との連携について

- ア 医療機関との連携で、埼玉医科大学総合医療センター 准教授 儀賀理暁氏が実施する、「がん教育セミナー」では、医療関係者と教育関係者が共に研修を行ったことで、各々の取組内容を情報共有でき、効果的な指導法や連携の仕方を考える機会となった。
- イ 授業研究会の中で、がん経験者、がん専門医を外部講師として招き、授業を行ったことで、児童生徒の心に響く、効果的ながん教育を推進することができた。

## 6 課題

### (1) 各学校の教育課程への位置付けの明確化

ア 平成29年3月に小・中学校の新学習指導要領及び解説が告示され、特に中学校学習指導要領には、「がんについても取り扱うものとする」と明記された。

同解説において「生活習慣病などの予防」の單元の中に「がんの予防」が明確に示されたことから、全面実施に向けてがん教育をすべての学校で指導していくことを周知する。

イ がん教育の目標を達成するためには、保健体育の保健の学習では、がんに対する正しい知識を身に付けさせ、関連教科等を通じて、健康と命の大切さ、がん患者への正しい理解について実施していくことが必要である。体育・保健体育の保健の学習を中核に他の教育活動と連携した指導について、モデルとなるような取組を継続して提案していくことが課題である。

ウ 指導方法については、小・中・高の系統性を踏まえた指導計画の作成を研究していく。

### (2) 外部講師の活用について

ア 保健医療部疾病対策課のがんに関する「出前講座」は、引き続き連携を取りながら協力していく。

イ 「保健」の授業で活用したい外部講師の選定・依頼・派遣については、専門的内容は、学校医やがん拠点病院の医師に、がん経験者については、推進連絡協議会委員のがん経験者に「がんの語り部」となれる人材を数名紹介していただきながら、学校に派遣できる体制を作っていくことが課題である。外部講師を対象とした研修会を保健医療部疾病対策課と連携して開催していく。

ウ 外部講師の育成のため、学校教職員対象の「がん教育指導者研修会」の参加を促していく。

### (3) 研修会等の充実と普及・推進

ア 児童生徒にがんについての正しい知識を習得させるためにも、教職員ががん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、養護教諭のみならず、保健体育科教諭等への研修会への積極的参加を呼びかけていく必要がある。参考となる指導案や指導教材などを情報提供し、どの学校でもがん教育を推進できる環境を整える必要がある。

イ がん教育の取組を、県内各地に偏りなく各学校で実践していくために、モデル校の選定を行い、がん教育指導者研修会や授業研究会の場を活用し、普及・推進していく。

## 7 平成31年度の事業について

### (1) がん教育推進連絡協議会の実施 (継続)

ア 日 時

(ア) 第1回 協議会 2019年7月12日(金) ※予定

(イ) 第2回 協議会 2020年1月17日(金) ※予定

イ 内 容

(ア) 本県のがん教育推進に向けた計画の検討

(イ) 本県のがん教育に関する計画の検証・成果報告

(2) がん教育指導者研修会の実施 (継続)

がんに関する指導を行う教職員の資質向上を図るため、研修会を実施していく。

ア 日 時

2019年8月28日(水)

イ 内 容

(ア) 行政説明

(イ) 実践事例発表

(小学校) 久喜市立菖蒲小学校

(中学校) 鶴ヶ島市立南中学校

(高等学校) 県立飯能高等学校

(ウ) 講 演

東京女子医科大学 教授 林 和彦 氏

演題「未定」

(3) がん教育授業研究会の実施 (継続)

ア 指導内容について

(ア) がんについて正しく理解することができるようにする。

・保健体育(保健教育)の充実を図る。

・県の目標:学習指導要領完全実施までに保健体育の「保健」の授業で100%実施を目指す。

(イ) 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

特別活動・道徳・総合的な学習の時間等、学校教育全体を通じて指導を行う。

(ウ) 授業検討委員会を設置し、発達の段階を踏まえた指導すべき内容について、さらに検討を重ねるとともに、系統性を踏まえた指導計画を作成する。

イ モデル校について

モデル校(市町村教育委員会)の選定については、東西南北の地域のバランスを考慮し、これまで取組が行われていない地域を優先的に実施していく。

(4) 外部講師の確保について

ア 今年度実施予定の医師・がん経験者等を対象とした「埼玉県がん教育外部指導者研修会」において、保健医療部疾病対策課と連携し学校におけるがん教育の推進について、研修を行うとともに、外部講師の協力依頼を行う。

イ 学校医に対し学校医研修等で「学校におけるがん教育について」情報提供し、協力依頼する。

ウ がん経験者については、がん教育推進連絡協議会委員である、がん経験者に協力していただき、「がんの語り部」になれる人材を募り、学校に派遣できるような体制を作っていく。

エ 県教育委員会と保健医療部疾病対策課、医療機関とが連携した研修会を次年度も計画していく。

(5) 関係機関との連携

県教育委員会と医療機関とが連携した研修会を次年度も計画していく。

ア 文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」を受託し、引き続きがん教育の推進を図っていく。

イ がん教育推進連絡協議会は今年度と同様年2回開催し、本県のがん教育推進のための計画、方向性、普及の仕方を検討し、各委員会から指導・助言をいただくことで推進を図っていく。なお、委員の人選については各関係団体に依頼する。



## II 平成30年度埼玉県がん教育指導者研修会について

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

### 平成30年度埼玉県がん教育指導者研修会開催要項

#### 1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようにすることが必要である。

学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、その必要性を十分理解し、学習指導の実践研究、普及啓発が行われるよう研修会を開催する。

2 開催日時 平成30年10月12日（金） 13：20から16：30まで  
（13：00から受付）

3 会 場 埼玉会館 大ホール  
〒330-8518 さいたま市浦和区高砂3-1-4  
電話 048-829-2471

4 主 催 埼玉県教育委員会

#### 5 参加対象者

- (1) 公立小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の管理職及び教職員  
（体育・保健体育科教諭、養護教諭、保健主事等）
- (2) 市町村教育委員会の指導主事 等

#### 6 日 程

13:00	13:20	13:25	13:40	14:40	14:50	16:20	16:30
受	開	行政説明	実践事例発表	休憩	講 演	質	閉
付	会	15分	60分		90分	疑	会
	行					応	行
	事					答	事

#### 7 内 容

##### (1) 行政説明

県教育局県立学校部保健体育課 馬場 久美子 指導主事

##### (2) 実践事例発表

- ・ 小学校指導事例 第6学年 体育科（保健領域）  
「病気の予防」生活習慣病の予防  
東松山市立青鳥小学校 能仲 和歌子 教 諭
- ・ 中学校指導事例 第3学年 保健体育（保健分野）  
「健康な生活と疾病の予防」 イ 生活行動・生活習慣と健康  
上尾市立西中学校 坂本 友美 教 諭  
上尾市立東小学校 村 ふみ 養護教諭
- ・ 高等学校指導事例 第1学年 保健体育（科目保健）  
「現代社会と健康」 イ 健康の保持増進と疾病の予防  
（ア）生活習慣病と日常の生活行動  
県立大宮東高等学校 齋藤 優気 教 諭

##### (3) 講 演

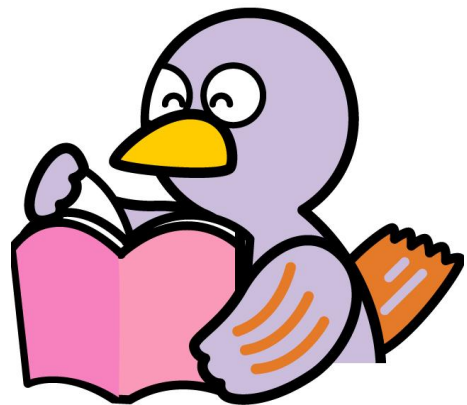
「学校におけるがん教育の展開」—子どもの学びを組織する保健授業のデザイン—  
講 師 埼玉大学教育学部 准教授 七木田 文彦 氏

<講演資料>

「学校におけるがん教育の展開」

—子どもの学びを組織する保健授業のデザイン—

講 師 埼玉大学教育学部 准教授 七木田 文彦 氏



H30 埼玉県がん教育指導者研修会(於埼玉会館 2018.10.12)

## 学校におけるがん教育の展開 -子どもの学びを組織する保健授業のデザイン-

七木田 文彦  
(埼玉大学教育学部)



### 「がん」を知ることができるのか？

- 「知らない」ことを「知らない」と知るべき

どこからはじめたらいいのか

### どのようなデザインが必要か？

- 「おのづから満ちくるありてをさな児は手を振り  
ひ歩みそめにき」(穴澤芳江)

彩の国 埼玉県  
Saitama Prefecture



2015: 蕨一中  
熊女

2016: 鴻巣南小  
早稲田中  
日高高

2017: 玉川小  
上尾西中  
大宮東高

#### 埼玉県「がんの教育総合支援事業」実施報告書

埼玉県教育委員会では、平成27年度から文科科学省の委託を受け「がんの教育総合支援事業」を実施しています。小・中学校、高等学校、埼玉県がんがん教育推進研究会、での協議等が「がん教育推進研究会」の議案の附帯を掲載しています。協議上の参考資料に添付願ってください。

平成28年度埼玉県「がんの教育総合支援事業」実施報告書

表紙(PDF: 438KB)

1. 平成28年度 埼玉県「がんの教育総合支援事業」(PDF: 879KB)

2. 平成28年度 埼玉県がんがん教育推進研究会(PDF: 3,263KB)

3. 平成28年度 埼玉県がん教育推進研究会(PDF: 2,354KB)

4. 平成28年度 埼玉県がんがん教育推進研究会(PDF: 903KB)

平成28年度埼玉県「がんの教育総合支援事業」実施報告書

表紙(PDF: 1,165KB)

## 2015年度 熊女・蕨一中の実践から

- 子どものがんのイメージは？  
→ 何に怖がっているのか？  

がんの種類	「髪が抜ける」
怖い	「やせる」
髪が抜ける	「食欲がない」
死	
やせる	
手術	
治らない	
- 中3と高1の知識の差は？

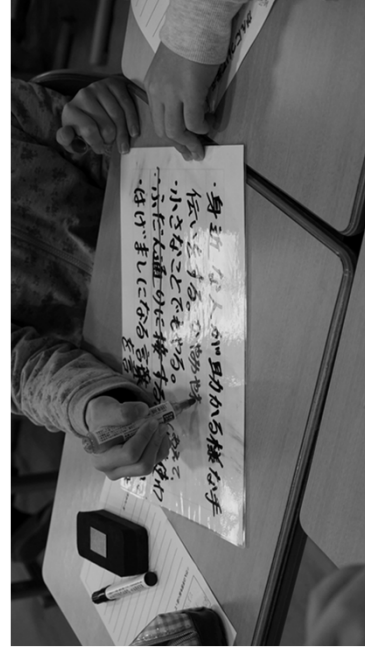
## がん教育の具体的な内容

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ア. がんとは(がんの要因等) | カ. がんの治療法       |
| イ. がんの種類とその経過   | キ. がん治療における緩和ケア |
| ウ. 我が国のがんの状況    | ク. がん患者の生活の質    |
| エ. がんの予防        | ケ. がん患者への理解と共生  |
| オ. がんの早期発見・がん検診 |                 |

## 2016年度 鴻巣南小・早稲田中・日高高校の実践から

- 外部講師(がん経験者)について  
→ がんの本質に迫る
- 教育内容の広さへの教師の苦悩  
→ なぜ悩むのか必要があるのか？

漠然と「がん」を臓器を特定しないままの授業では…  
**浅く広くから狭く深く → そして、広げる**  
 基礎基本(抽象的) 応用発展(具体的)



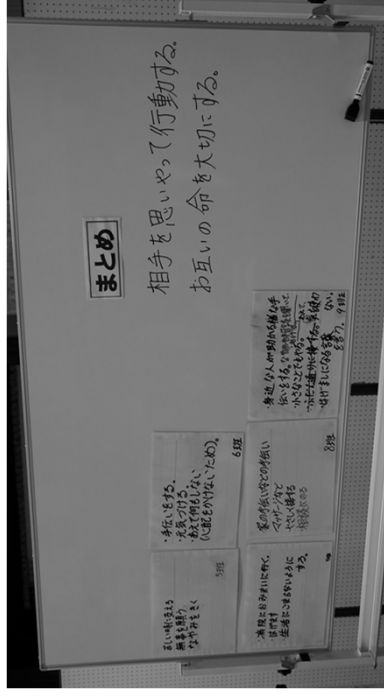
「あえて、」の意味

「気をつかわない」



「あえて、気をつかわない」

しかし、..



2017年度 玉川小、上尾西中、大宮東高の

実践から

- ・ オーセンティックな(真正な)学びにどのように迫るのか

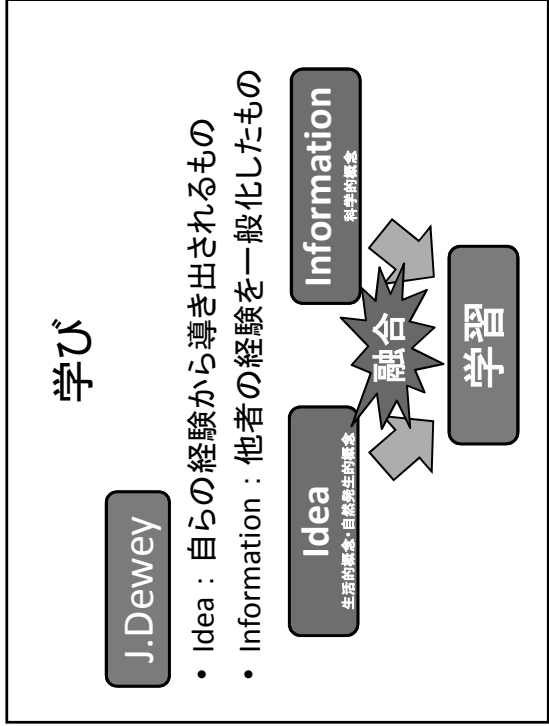
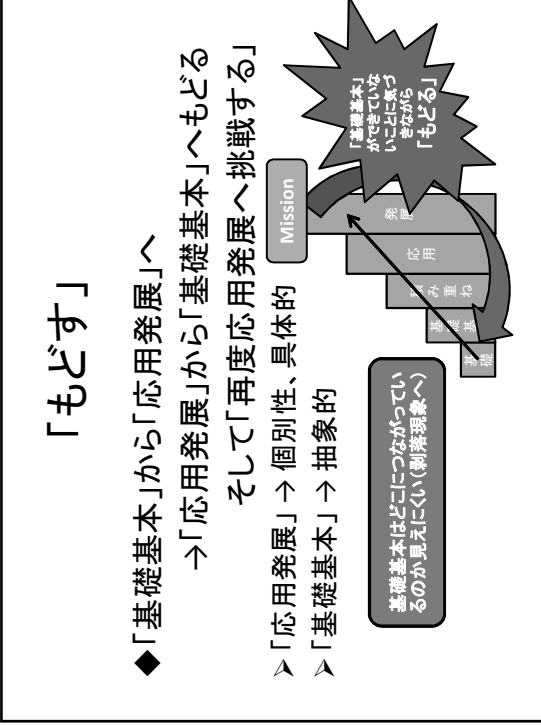
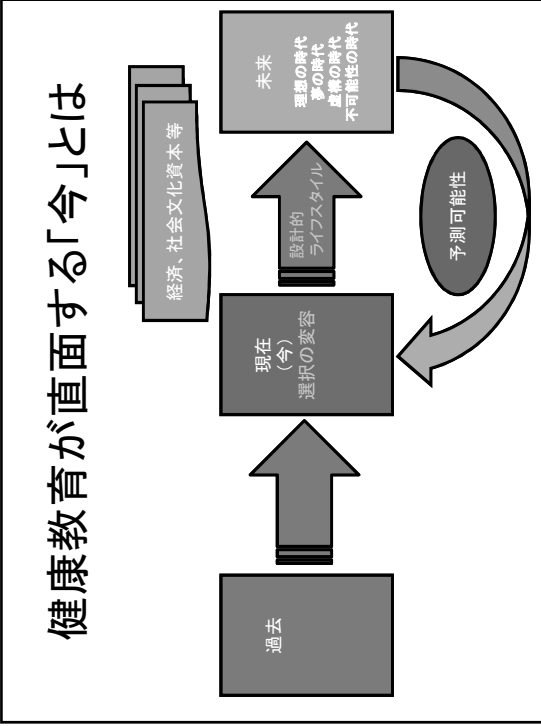
対話(Dialogue)

→「わからないこと」の共有(「知らないこと」を知る)

「欲望」と「絶望」と「希望」

- ・ 高橋君「今までどおり笑顔で接する」
- ・ 見沼君:「今が楽しければいい」

- ・ 平野さん「忙しいとは思いますが、休日などを利用して、検診を受けるなど、せつかくタバコや酒をやっていないのだから、もっと運動すれば、よりがんになる確率を減らせると思いますが」(罹患前提)



### 「わかる」の4段階

(2) 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う(中学校学習指導要領保健体育科解説)

- 抽象的な思考なども可能になるという発達段階を踏まえて、個人生活における健康・安全に関する内容について科学的に思考し、判断するとともに、それらを筋道を立てて他者に表現できるようにすることを目指している。

## 「勉強」と「学び」

- これまでのわかかることとは、貯金のように貯蓄し蓄えることのように考えられ、わかることを積み上げていけばわかったこととされているが、わからないことに疑問を持つこと、あるいは、わからないことをたくさん蓄えることが次の学びのステップになってくる

「わからない」ことを共有する

なぜ学校教育においてがん教育を取り上げることが議論されるようになったのか

- ①国民の健康状況（公衆衛生）の変化
- ②がん対策基本法（平成18年法律第98号）に基づくがん対策推進基本計画」（平成24年6月）
- ③公益財団法人日本学校保健会に「がん教育に関する検討委員会」（平成25年度、文部科学省補助金）

## 国民の健康状況（公衆衛生）の変化

- 「生涯のうち、国民の二人に一人ががんにかかる？可能性」と言われるけれども...
- その確率はもっと上がる見込み
- 「がん」について、国民の基礎的教養（ヘルスリテラシーの観点で）が必要

## 留意点

- ・小児がんの当事者、小児がんにかかったことのある児童生徒等がいる場合
- ・家族にがん患者がいる児童生徒等や、家族をがんで亡くした児童生徒等がいる場合
- ・生活習慣が主な原因とならないがんもあることから、特に、これらががん患者が身近にいる場合
- ・がんに限らず、重病・難病等にかかったことのある児童生徒等や、家族に該当患者がいたり家族を亡くしたりした児童生徒等がいる場合。

## 新学習指導要領

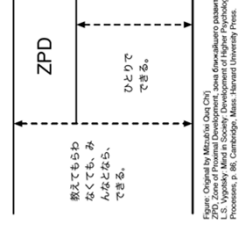
- ・ 小学校体育科「病気の予防」(第6学年)  
「(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」
- ・ 中学校保健体育科(第2学年)  
「健康な生活と疾病の予防」  
(ウ)生活習慣病などの予防  
(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

## どのレベルに課題を設定するか

A \_\_\_\_\_  
B \_\_\_\_\_  
C \_\_\_\_\_

## 背伸びとジャンプ

- ・ 発達の最近接領域(ZPD: Zone of Proximal Development) Vygotsky, L.S.





これまでの「授業づくり」(学びの創造)は

「指導案づくり(Planning)」の過度な重視  
→ 綿密に計画された(Planning)授業

- “Planning”は、授業で生起する子どもの考えや状況に臨機応変に向き合うことができない
- 「行為の中の省察」を忘れ、計画(Plan)の着実な遂行を重視してしまう

<“Program”(ex.PDCA)から  
“Project”へ>

項目	Plan	Do	Check	Act
目的	1. 授業の目的を明確にする。 2. 学習の目標を設定する。 3. 教材の準備を完了させる。	1. 授業を実行する。 2. 学習者の反応を観察する。 3. 教材の活用を評価する。	1. 授業の進捗を確認する。 2. 学習者の理解度を評価する。 3. 教材の効果を確認する。	1. 授業の結果を評価する。 2. 学習者の反応を評価する。 3. 教材の効果を確認する。

子どもの学びをデザインする授業の事例研究とは

教師がいかに「教えるか」という  
授業の事例研究から



子どもたちがどのように「学んでいるか」という  
授業の事例研究へ

子どもの学びの姿を中心に  
見ることが重要

教師(「専門家」としてもとめられること

- 「行為の中の省察」と「状況との対話」—
- 個々の声を「聴き(listen)」、「つなぎ」、「もどし」、「ジャンプする」  
授業のデザイン
- 「階段型のカリキュラム」から「登山型のカリキュラム」への移行

階段型カリキュラム(これまでのカリキュラム): <目標→達成→評価>一量  
—Program型(広く深く学ぶ)  
• 効率性と生産性を追求する模式(目標達成が価値・学びの画一化)  
• 最終のゴールに向けてSmall Stepの階段を準備(誰もが同じルートで学ぶ)  
• 「階段型」における「個性」とは、階段を上昇する速度の差異(狭い経験)

登山型カリキュラム:<主題→経験(探究)→表現>—質—Project型  
• 頂上への到達を目標としているが、その価値は、山登りの経験それ自体の楽しみが求められる(自分で道を選択し自分の方法とペースで山を登ることが可能)。大量の知識や技能を効率的に伝達できない(少なく深く学ぶ)。  
• 社会と文化の民主的変革を標榜して、学校に「学びの共同体」を樹立する性格(学びの多様な筋道が学びの過程に準備されている)

- 教師としての「教養」、健康の専門家としての「教養」が重要

「がん」をどのようにとらえるのか？

—保健授業の難しさはどこにあるのか？—

- 科学(医学)の発達は何をもたらしたか？
- 「設計的ライフスタイル」の確立(均質化された世界)
- 「予測可能性」の中を生きる時代  
(アンジーの例や出生前診断の例;新たな選択肢の出現)
- ✓ 「今」を生きることは「予測可能性」の中で規定された「現在(今)」を選択して生きること(人間性の希薄化)

## 近年の「健康教育」の特徴と今後のヴィジョン

社会に適応する「強い自己」の形成を目指しながら課題解決を図る「健康教育」(新自由主義)から

「自由競争」と「自己責任」を前提とする原理(個がバラバラに→コミュニティの解体)  
→合理的・効率的生き方と予測可能性の中で現在を規定してしまう(道徳的価値の付与が問題となる)→リスクに対して積極的に自己コントロールできる主体の形成

対話(dialogue)を中心とした「つながり」と「ケア」の「健康教育」として授業を創造する

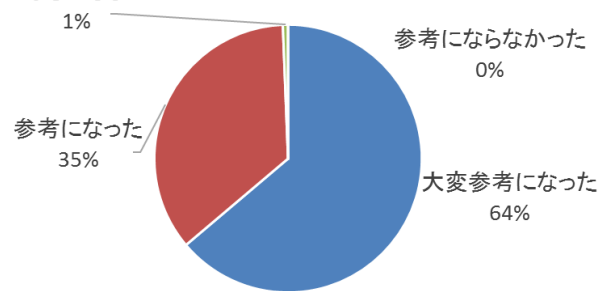
バラバラに解体された個から対話によるコミュニティの再構成へ向けた試み(Project: 毛との対話(世界づくり)、他者との対話(仲間づくり)、自己との対話(自分づくり)の三つの対話の実践としての字び

## 「まだ、経験していないこと」を学ぶ -道徳的視点の越境-

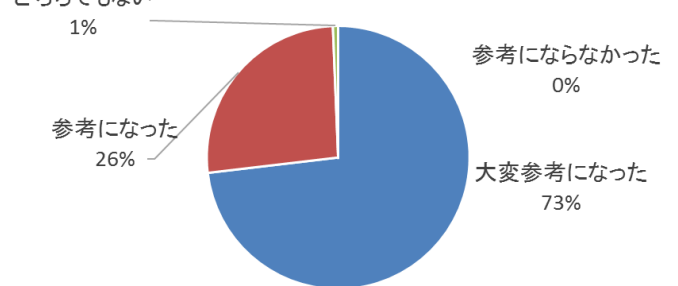
- 「健康が大切であること」は、子どもも教師も理解している(?)。健康の価値に支えられながら合理的な生き方を設計し、生きていくことは、予測可能性のなかで現在を規定することでもある。よって、医学的見解(実感の伴わないデータ)を前提として合理的な生き方を無条件に引き受けることには道徳的価値が付与されなければならない。実際は、個人のおかれた状況と生き方、価値観は異なるので、対話(dialogue)による授業を構成し、認識を深化する必要がある。
- 社会に適応する「強い自己」の形成を目指しながら課題解決を図る健康教育から対話を中心としたつながりとケアの健康教育へと新たな創造が期待される時期にきている。

平成30年度がん教育指導者研修会アンケート結果

実践発表について



講演について



<実践発表について>

「大変参考になった」「参考になった」

<理由>

- ・小・中・高等学校のそれぞれの校種で、どんな内容を扱ったらよいのか参考になった。
- ・がんを自分のこととしてとらえることのできる実践であった。
- ・「がんを知ることが、共生につながる」という言葉が印象的であった。
- ・様々な授業の仕方、アプローチがあるのだと思った。
- ・多岐にわたる内容の中で、どこに焦点を絞って授業をするのかがわかった。
- ・養護教諭としてどのように授業にかかわっていったらよいか参考になった。
- ・授業の際に、がん患者が身近にいる児童生徒への配慮の大切さを感じた。
- ・授業づくりのアイデアをたくさんいただくことができた。
- ・小学校のころからのがん教育で、健康や命の大切さについて考えさせることはもちろん、身近な人ががんをり患した場合の心構えやより良い生き方につながる教育であると改めて感じた。

<講演について>

「大変参考になった」「参考になった」

<理由>

- ・何をどのように教えればいいのか、どのように指導していくのかが少し見えてきた。
- ・がん教育のみならず、他の教科の指導にも共通する内容であり、勉強になった。
- ・授業をデザインするという点で、大変参考になった。
- ・子供たちにとって「生きた授業」「学び」に導くためにどのように実践していくべきか考える貴重な機会となった。
- ・なぜ学ばせなければならないのかを自分自身で理解しながら授業を進めたい。
- ・今まで考えていたがん教育への価値観が変わるような御講演だった。
- ・具体的な内容での学びの大切さ、対話を重ねて学びを深めることなど大変勉強になった。
- ・がん教育という視点はもちろん、学びの過程など、勉強になった。
- ・がん教育について、どのような授業を行うか、どのような点に気を付けるとよいかを実際の授業の様子を聞きながらイメージすることができた。

### Ⅲ 平成30年度埼玉県がん教育授業研究会

#### 1 久喜市立菖蒲小学校

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

#### 平成30年度埼玉県「がん教育」授業研究会(小学校)実施要項

##### 1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 平成30年11月2日(金)

4 会 場 久喜市立菖蒲小学校  
〒346-0106 久喜市菖蒲町菖蒲625番地

5 参加対象者 小学校教職員(教諭、養護教諭、保健主事等)、県立特別支援学校教職員及び指導主事

##### 6 日 程

- |          |               |         |
|----------|---------------|---------|
| (1) 受付   | 13時00分～       | ( 体育館 ) |
| (2) 全体会  | 13時25分～13時45分 | ( 体育館 ) |
| (3) 公開授業 | 13時55分～14時40分 | ( 体育館 ) |
| (4) 研究協議 | 15時00分～16時30分 | ( 体育館 ) |

##### 7 公開授業

学年	授業者	題 材
6年	小島 宏之 教諭	特別活動 「健康と命の大切さ」 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成

##### 8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	課 長	伊藤 治也
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主席指導主事	駒崎 弘匡
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指 導 主 事	馬場久美子
埼玉県教育局東部教育事務所	指 導 主 事	瀬高 武夫
久喜市教育委員会学校指導課	指 導 主 事	渡辺 充範

##### 埼玉県がん教育授業検討委員会委員

埼玉大学教育学部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	准 教 授	儀賀 理暁
鴻巣市立鴻巣南小学校	教 諭	堀 祐介
春日部市立豊春小学校	養 護 教 諭	野上 弘恵

## 第6学年1組 学級活動（保健指導）指導案

平成30年11月2日（金）第5校時  
 場所 体育館  
 児童数 41名  
 指導者 小島 宏之

### 1 題材名 健康と命の大切さ（カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成）

### 2 児童の実態と題材設定の理由

#### (1) 児童の実態

本学級の児童は、1年生から5年生までは、2学級であったが、6年生になり単学級となった。このため、進級当初はとても賑やかであったが、徐々に落ち着いて学校生活が送れるようになった。また、低学年の頃より男女仲良く、誰とでも協力して活動することができる。さらに、他学年に対しても、思いやりをもって接することができる。しかし、グループや班などの少人数の場では、自分の意見を言えるが、学級全体の場で自分の意見を進んで発表することに消極的な児童もみられる。

児童はこれまでに、体育の保健領域の学習「病気の予防」では、病原体や体の抵抗力、生活行動、環境などが関わり合って病気が起こることを学習し、さらに、予防の仕方にも病気によってそれぞれ異なっていることを学習してきた。

事前アンケートの結果は以下のようにになっている。（平成30年9月 実施 41名）

#### ①がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	質問	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	32	8	1	0
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。	33	7	1	0

#### ②がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	質問	正しい	誤り
a	(ア) がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	38	3
b	(イ) がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	38	3
c	(ウ) がんは日本人の死因の第2位である。	18	23
d	(エ) たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	32	9
e	(オ) 早期発見すれば、がんは治りやすい。	36	5
f	(オ) 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	1	40
g	(カ) がんの治療法には手術治療しかない。		
h	(キ) がんの痛みは我慢するしかない。		

#### ③がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	質問	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない
a	(ア) 自分はがんにならないと思う。	5	0	20	16
b	(エ) 将来、たばこは吸わないでいようと思う。	36	3	2	0
c	(エ) 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	24	15	1	1
d	(オ) がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	25	13	2	1
e	(カ) がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。				

f	(ク) がんになっても生活の質を高めることができる。	9	18	11	3
g	(ケ) がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	32	7	1	0
h	(コ) がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	16	20	3	2
i	(コ) 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	39	2	0	0
j	(コ) 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	34	7	0	0

アンケートの結果から、健康な生活を送るためには、がんについての学習が重要であると考えている児童が多くいることが分かる。また、「がんは誰もがかかる可能性のある病気である。」との問いにも、9割以上の児童が「正しい」と答えており、がんについてある程度の知識をもっていることがうかがえる。

しかし、予防や早期発見についての質問は、正しく答えられなかった児童が1割～2割いる。また、「がんになっても生活の質を高めることができる。」との問いには、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた児童が4割近くおり、「がんは日本人の死因の第2位である。」との問いにも、誤った回答をした児童が4割以上いる。これらのことから、がんを真に身近な問題としてとらえている児童は少ないことが分かる。

## (2) 題材設定の理由

がんは1981年より日本人の死因の第1位で、現在では年間36万人以上の国民ががんによって亡くなっている。また、生涯でがんにかかる可能性は年々増加しており、今日においては、日本人の2人に1人はがんになり、3人に1人はがんで亡くなると言われている。このことより、がんはわが国の国民における健康及び生命にとって重要な課題であり、健康に関する国民の基礎的教養として身に付けておくべきものとなりつつある。

わが国では、がん対策基本法の下、がん対策推進基本計画が策定された。その中で、「健康について子どもの頃から教育することが重要であり、学校でも健康の保持増進と疾病の予防といった観点から、がんの予防も含めた健康教育に取り組んでいる。しかし、がんそのものやがん患者に対する理解を深める教育は不十分であると指摘されている。」といった現状や、「子どもに対しては、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつよう教育することを目指す」といった目標も示されている。

このようなことから、学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、がんを正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようになることを考えた。そして、がんを特別に扱うのではなく、がんを扱うことを通して、他の様々な病気の予防や望ましい生活習慣の確立を含めた健康教育の充実を図る上でも意義のある内容であると捉え、本題材を設定した。

指導にあたっては、単にがんという病気そのものについての知識・理解の定着を図るのみではなく、がんを自分の生活と結び付けてとらえることを通して、がんやその他の病気を予防するために何ができるかを考えられるようにする。また、がん患者の話に触れることで、がん患者に対する理解や、がんという病気とどう向き合えばよいかについて、考えられるようにする。そのために、がん教育を教科横断的な視点でとらえ、保健体育や道徳、特別活動において、各教科の特質に応じた指導を展開していく。

保健体育科においては、健康に良くない生活とは具体的にどのようなことかを理解し、長く続けているとどうなるかを、心臓病や脳卒中などの血管の病気と結びつけて考えるようにする。また、生活習慣病は必ずしも大人だけの病気ではないことをおさえ、自分の生活習慣を振り返って、これから改善したいこと、心がけたいことを考えるようにする。

がんについては、①がんも生活習慣病のうちの一つであること ②がんは日本人の死亡原因の1位であること ③がんは2人に1人がかかる病気であることをおさえ、のちに、くわしく学習することを伝える。

道徳科においては、悩みや苦しみと闘いながら、生きる喜びを感じ、よりよく生きていこうとす

る人間の素晴らしさに感得し、自分の生き方について考え、自覚を深めていけるようにする。

わが国では、2人に1人が生涯にがんにかかるという状況があり、今日的課題として、「がんとともに生きる社会」があげられている。このことから、私たちはどのように、がんと向き合って生きていったらよいのかを考えなければならない。「がん」という診断を受けたら、誰もが大きな衝撃を受け、死への恐怖や不安に襲われるにちがいない。心が大きく揺れ動き、悲観的に考え、様々な生活上の支障も出てくる。しかしながら、がんにかかっても、がんと向き合い、生き生きと日常生活を続け、仕事をされている方がいる。もちろんそうした方々も、最初からがんと上手く向き合ってきたわけではない。がんと向き合っている方をゲストティーチャーに招き、「がんとともに歩む気持ちをしっかり持って、自分らしく生きることの大切さ」を語ってもらう。また、子どもたちが、がんと向き合う方々とともに生きるために、自分ができることを考えていけるように、児童の質問に答えてもらう。

特別活動においては、前時の道徳で深く考えた、がんと向き合っている人との関わりをもとに、自分とがんの関わりについて学ぶ。がんと向き合うゲストティーチャーとの出会いは、子どもたちにとって心に大きな印象を残しているに違いない。他者との関わりについては、自分なりの答えを出せたものの、自分とがんとの関わりを提起されると、未習であるだけに知識の少なさから大きな不安を感じずにはいられないだろう。このことから「がんについて調べ、自分ができることを考えよう」という課題のもと調べ学習をする。その際、文部科学省のがん教育推進のための映像教材「がん博士のがんについての基礎知識」を用いて自力解決を図る。調べたことを自分からグループ、グループからクラス全体へと話し合いや発表を行うことで、思考を広げていきたい。さらに将来の自分を見つめさせより確かな自己実現を図るために、「20歳の自分に向けてメッセージ」を書き記し発表することで、がんを通した、健康のために自分に取り組む目標を確かなものとしたい。

本単元の指導にあたっては、「がんについて正しく理解すること」「健康と命の大切さについて主体的に考えること」を身に付けさせるために、がんに対する知識、原因、予防、早期発見、検診等についての基礎的な内容に絞って学習し、主に、健康と命の大切さについて主体的に考えることを中心に扱っていきたい。

### 3 指導のねらい

- がんを予防・早期発見するために自分にできることを具体的に考えることができるようにする。
- がんに対する正しい知識をもつことができるようにする。

### 4 評価規準


集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
がんを予防・早期発見するために自分にできることを主体的に考え、よりよい生活習慣の形成や健康の保持増進に取り組もうとしている。	自身の健康のためにできることを考え、今までの生活や意識を見直し、自分に取り組むことの目標や方法を考え、判断し、実践している。	がんに対する知識やがんを予防・早期発見するための正しい方法を理解している。

### 5 事前の指導

時	主な活動		・指導上の留意点	○評価
	教科	学習内容		
1	保健(1/5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活行動が主な要因となって起こる病気には、心臓や脳の血管が硬くなったり、つまったりする病気があること。</li> <li>・その予防には望ましい生活習慣を身につける必要があること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんが死亡原因の1位であることを押さえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活習慣病の原因と予防策が分かる。</li> <li>【知・理】</li> </ul>






2	道徳(1/1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「もし身近な人ががんになってしまったら」というテーマのもと、がんになった経験のある方の話を聞いたり、質問したりして、自分なりの接し方や心のよりそい方を見出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーのお話</li> <li>・がんという病気</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がんと向き合う人々と触れ合うことを通して、共感的な理解を深め、自己の在り方や生き方を考え共に生きる態度を育成する。</li> </ul>
3 (本時)	学級活動 (1/1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんとはどのような病気か知ること。</li> <li>・その予防には望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。</li> <li>・児童一人ひとりが、がんという病気に対して、①自らの生活(食生活等)を見直していこうとすること、②大人になったら早期発見のための検診を受けようとするを通して、がんを予防しようとする態度を身に付けること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんについて詳しく知りたい項目ごとに各自で調べさせる。</li> <li>・健康のために自分が取り組む目標とその根拠を自分の言葉でまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がんの予防には生活習慣が関係しているものもあることが分かる。 【知・理】</li> <li>○がんを予防・早期発見するために自分にできることを主体的に考え、よりよい生活習慣の形成や健康の保持増進に取り組もうとしている。 【思考・判断・実践】</li> </ul>


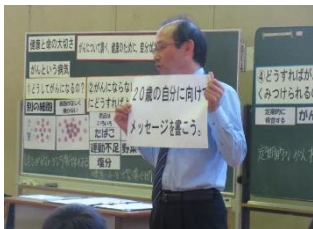
## 6 本時の学習（学級活動）

(1) ねらい 健康のためにできることを考え、自分が取り組むことの目標や方法を明確にすることができる。

(2) 展開

時間	学 習 活 動	○指導上の留意点 ◆評価	教材・資料
導入 3分	1 既習を振り返る。 ・生活習慣病の原因とその予防 ・がんと向き合いながら生活している方の話	○前時までを振り返り、既習事項を想起させる。	・ホワイトボード
展開 20分	2 本時のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">           がんについて調べ、健康のために自分ができるところを考えよう。         </div> 3 がんについて自分の課題を調べる。 ① どうしてがんになるの（原因） <ワークシート記入例> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の細胞の中にまれに別の細胞ができてしまう。 (がん細胞)</li> <li>・がん細胞がどんどん増えて、正しい細胞が正しく働かなくなってしまう。 (がんという病気)</li> </ul> ② がんにならないためにはどうすればよいか？ (予防) <ワークシート記入例> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原因はいろいろあり、わかっていないものもある。</li> <li>・たばこを吸わない。</li> <li>・お酒を飲みすぎない。</li> <li>・野菜不足にならない。</li> <li>・塩分を取りすぎない。</li> <li>・運動不足にならない。</li> </ul> ③ がんは、治すことができるの？（早期発見） <ワークシート記入例> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんが小さいうちに治せば95%治せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今まで学習してきたことを、自分自身の生活にどう結びつけるのか、児童の学習への意欲を促す。</li> <li>○事前アンケートでがんについて詳しく知りたいと答えた項目ごとに各自が映像教材を利用して調べさせる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文科省映像教材「がん博士の「がんについての基礎知識」」</li> <li>・ワークシート</li> <li>・タブレット</li> </ul>



<p>3 分</p> <p>10 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんが小さいうちに見つけること。</li> <li>・がんが小さいうちは自分では気づきにくい。</li> <li>・がんは発見できる大きさになるのに、10年～20年かかる。</li> </ul> <p>④ どうすればがんを早く見つけられるの？（検診）</p> <p>&lt;ワークシート記入例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人したら病院で定期的に検査する。（がん検診）</li> </ul> <p>4 調べた結果、まとめたことを伝え合う。</p> <p>① どうしてがんになるの（原因）</p> <p>② がんにならないためにはどうすればよいか？（予防）</p> <p>③ がんは、治すことができるの？（早期発見）</p> <p>④ どうすればがんを早く見つけられるの？（検診）</p>  <p>5 健康のために自分が今できることを書く。</p> <p>6 グループで考えを伝え合う。</p> <p>&lt;予想される児童の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タバコを吸ったりお酒を飲んだりしない。（発表児童）</li> <li>・自分だけではなく、家族にもお願いした方がいい。（グループ児童からのアドバイス）</li> <li>・正しい生活習慣を続けたい。（発表児童）</li> <li>・例えば何を続けるのかははっきりした方がいい（グループ児童からのアドバイス）</li> <li>・がんを予防するために、定期的に検診を受けたい。（発表児童）</li> <li>・自分もその通りだと思う。（グループ児童からの感想）</li> </ul>	<p>○発表を聞き合い、課題ごとに調べてまとめたことをクラスで共有させる。</p> <p>◆がんに対する知識やがんを予防・早期発見するための正しい方法を理解している。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>○既習をもとに、健康のために自分が取り組む目標とその根拠を自分の言葉でまとめさせる。</p> <p>○互いの目標と根拠を聞き合うことと感想やアドバイスを伝え合うことを明確に指示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文科省映像教材がん博士の「がんについての基礎知識」</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
<p>まとめ 5 分</p> <p>2 分</p> <p>2 分</p>	<p>7 20才の自分に向けてメッセージを書く。</p> <p>&lt;メッセージ記入例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣に気を付けて、健康で元気に生活していますか。これからも、自分や家族のために、正しい生活習慣を続けてください。</li> <li>・タバコやお酒は、がんの原因になります。健康のため、がんにならないためにも、タバコとお酒はやめてください。</li> <li>・がんは誰にでも起こる病気です。しかし、早期発見すれば治る可能性もあります。定期的に検診を受けてください。</li> </ul> <p>8 20才の自分自身へのメッセージを発表する。</p>  <p>9 教師の話を聞く。</p>	<p>○本時までに学んだ既習を生かしてメッセージが書けるよう机間指導する。</p> <p>◆自分自身の健康のためにできることを考え、将来にわたって取り組むことを考えている。</p> <p>【思考・判断・実践】</p> <p>○学級全体でメッセージを共有させる。</p> <p>○メッセージを書き上げた児童を称賛し、健康の大切さを押さえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・担任の子の画像</li> </ul>

平成30年度がん教育授業研究会（久喜市立菖蒲小学校）アンケート結果

【本日の授業研究会の内容について】

「大変参考になった」「参考になった」

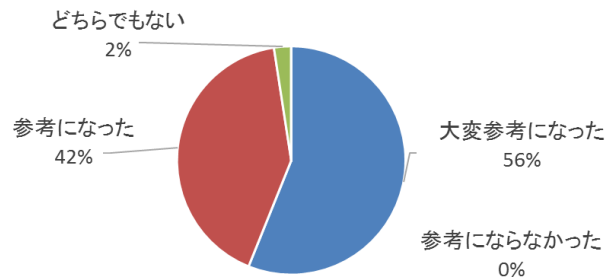
<理由>

○授業内容について

- ・盛りだくさんの内容であったが、児童がしっかりと取り組んでいた。
- ・自分の生活へとつながる授業だった。
- ・教科横断的な学習計画が参考になった。（知識面、心の面、最後は実践力）
- ・体育の保健領域、道徳、特別活動のそれぞれの教科の特質を生かした系統性のある授業展開であった。
- ・担任の先生の最後の話が感動的だった。子供たちの心に響いたと思います。
- ・実際に授業するには、どこを目指してどのような方法で展開したらよいのか考える機会となった。
- ・がんについての基礎知識や、予防、治療まで様々な角度から取り扱うことができ、奥が深い題材だと思った。
- ・小学生からがんについて正しく学ぶことにより、子供たちの心に何かが残る、これからの人生が変わっていくのではないかと思った。
- ・最後に小島先生が言っていた、「今できることを今日から」という言葉が印象的だった。
- ・がんについて理解を深めながら、自身について振り返る学習活動もあり、子供たちが一生懸命考えている姿が素晴らしかった。
- ・20歳の自分に手紙を書くことで、行動化に結び付けられるのではと考える。
- ・先生のご家族の話があったことで、身近な病気だと子供たちに印象付けることができたと思う。
- ・小島先生の最後のお話を聞いたときに、涙が出そうになった。小島先生ご自身の体験が子供たちにとって最高の生きた教材だと思った。
- ・事前のアンケートで、児童に気付かせたい内容や、授業で特に学んでほしい内容を意図的に項目として入れていたのがよかった。
- ・「自分のこととして、主体的に考え、実践していくには」というテーマが明確だった。
- ・がんを正しく理解し、健康な生活や予防に努めるとともに、早期発見や検診の大切さについて、児童が家族にも伝えられるようになることさらに良いなと思った。
- ・子供たちから「一人では、病気に負けてしまうから支え合う」「家族にがん検診をすすめる」「家族ががんになったら安心できるように笑顔で過ごす」などの意見が出ていて、心の面でも深い学びになっていると思った。
- ・主体的、対話的で深い学びにつながる有意義な授業であった。
- ・養護教諭や栄養教諭の力も借りるとなお良くなると思う。
- ・早期発見について、児童への定着が弱い気がしたので、最後の発表で検診のことを書いてある子を指名するとよいのかなと思った。
- ・①がんとは何か、②がんを経験した人の気持ち、③自分ができること、と順序立てて指導することで自分事としてとらえやすくなっているように感じた。
- ・学活なので、子供たちがより実践につなげられるような展開も必要かと思った。（今の自分にできること、したいことをより具体的に）
- ・本時までの2時間の内容が本時への大切な土台となっていることを感じた。
- ・発表に対する先生の言葉がけがあたたかく、子供たちが熱心に活動していた。

○児童について

- ・児童の主体的な活動が見られた。
- ・グループでの話し合いが上手にできていた。（司会の役割、質問、それに対する答えなど）
- ・子供たちが健康に対する意識、がんに対する知識や危機感をもっていて驚いた。
- ・子供たちが素晴らしく普段からの良いクラスづくりを想像することができた。
- ・自分ができることについてよく考えられていた。
- ・話し合い・発表の手順がしっかりしていて、日頃の学級経営の賜物と感じた。
- ・お互いの考えを尊重し、自分の考えもきちんと言えていた。



- ・子供たちが物おじせず、発表できていた。担任の先生の学級経営が素晴らしいことが垣間見えた。
- ・子供たちが、本当に賢く素直ですばらしかった。
- ・話し合い活動において、しっかり発表したり、意見を交換したり、だれもが参加できていて素晴らしかった。
- ・20才への自分への手紙がともしっかりかけていて驚いた。3時間扱いで取り組まれている成果なのかと感じた。

#### ○教材・教具について

- ・タブレットが一人一台あるので、調べ学習がしやすい。一人一人のペースで学べる。
- ・映像教材が分かりやすかった
- ・文科省から出ている教材を取り入れていきたい。

#### ○ワークシートについて

- ・20才の自分へのメッセージは、本時の学習を生かして記入することができていた。
- ・ワークシートの工夫が見られた。4つの視点で整理できる。
- ・調べることの視点が設定されていて、「自分が今できること」が具体的にかけていた。
- ・振り返りに活用できるワークシートだった

「どちらでもない」

<理由>

- ・児童は本当に自分の事として考えられていたのか。当たり前前の答えを書いているように思った。
- ・がん教育の方向性がわからない。

#### 【がんに関する授業を実施するにあたっての課題】

- ・時数の確保。特別活動の時数の確保は難しい
- ・教師の専門的知識の不足
- ・児童への配慮（小児がんを患っている児童、がんで治療中の保護者がいる場合、身近な人ががんで亡くなっている場合）
- ・事前の保護者への周知の仕方
- ・怖いもの、遠いものにならないようにすること
- ・がん教育そのものに対する理解（職員間での共通理解）
- ・総合的な学習の時間の単元でできれば時数を確保できる
- ・ゲストティーチャーの確保（小学生向けにわかりやすく話していただける方）
- ・身近に感じるのが難しい
- ・年間指導計画への位置づけ（教育課程への位置づけ）
- ・他機関との連携
- ・評価について
- ・教材づくり
- ・実施学年の検討
- ・学習したことをどの様に生活に生かすか。
- ・子供たちに何を伝えたいのか、（早期発見？検診？生活習慣？）方向性が難しい。
- ・他にやらなければならないことが多く、がん教育が実施できる体制づくりをしていきたいが、難しい。
- ・文科省の明確な意図がつかみ取れない。
- ・がんになったことで、「自分は健康の管理ができていなかったのでは」「規則正しい生活が送れていなかったのではないか」と自分を責めることがないよう、道徳や特別活動で補う必要がある。（がんの原因が生活習慣だけではないため）
- ・誤解なく、正しく教えることの難しさが課題
- ・課題意識の持たせ方
- ・がん細胞についてわかりやすく説明すること
- ・教員の研修不足
- ・特別支援学校でのがん教育をどのように進めていくか。

### Ⅲ 平成30年度埼玉県がん教育授業研究会

#### 2 鶴ヶ島市立南中学校

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

#### 平成30年度埼玉県「がん教育」授業研究会(中学校)実施要項

##### 1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 平成30年11月13日(火)

4 会 場 鶴ヶ島市立南中学校 鶴ヶ島市南町1丁目27-1  
\*駐車場がありません。公共交通機関で来校願います。  
(東武東上線「鶴ヶ島駅」下車、東武バスにて「川鶴団地」降車 徒歩3分)

5 参加対象者 中学校教職員(保健体育科、養護教諭、保健主事等)、県立特別支援学校教職員、及び指導主事

##### 6 日 程

- |          |               |         |
|----------|---------------|---------|
| (1) 受付   | 13時00分～       | ( 体育館 ) |
| (2) 全体会  | 13時20分～13時40分 | ( 体育館 ) |
| (3) 公開授業 | 13時50分～14時40分 | ( 体育館 ) |
| (4) 研究協議 | 15時00分～16時30分 | ( 体育館 ) |

##### 7 公開授業

学年	授業者	単元名
3年	忍田 友子 教 諭 高沢 聖子 養護教諭	保健体育(保健分野) 「(4) 健康な生活と疾病の予防」 イ 生活行動・生活習慣と健康

##### 8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	課 長	伊藤 治也
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主席指導主事	駒崎 弘匡
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指 導 主 事	馬場久美子
埼玉県教育局西部教育事務所	指 導 主 事	栗原 智靖
鶴ヶ島市立教育センター	指 導 主 事	安達 隆元

埼玉県がん教育授業検討委員会委員

埼玉大学教育学部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	准 教 授	儀賀 理暁
川口市立在家中学校	教 諭	佐野 秀行
久喜市立菖蒲中学校	養 護 教 諭	永島 志乃

# 保健体育科（保健分野）学習指導案

平成30年11月13日（火） 第5校時 体育館  
第3学年1組 男子17名 女子17名 計34名  
指導者 (T1) 教諭 忍田 友子  
(T2) 養護教諭 高沢 聖子

## 1 単元名 「健康な生活と疾病の予防」 イ生活行動・生活習慣と健康

### 2 単元について

「健康な生活と疾病の予防」(本単元)では、人間の健康は、主体と環境がかかわりあって成り立つこと、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それにかかわる要因に対する適切な対策があることについて理解させなければいけない。本単元のうち「イ 生活行動・生活習慣と健康」では、健康と生活行動は深く関わっており、食生活、運動、休養及び睡眠のそれぞれと健康との関係について理解できるようにさせる。また、健康を保持増進するためには、調和のとれた生活を続けることが必要であること、不適切な生活習慣はやせや肥満などを引き起こしたり、生活習慣病を引き起こす要因となったりし、生涯にわたる心身の健康に様々な影響があることについても理解させる。特に我が国の重要な健康課題となっているがんについては重点的に取り扱うこととする。

生涯のうち国民の二人に一人がかかると推測されるがんは重要な課題であり、健康に関する国民の基礎的教養として身に付けておくべきものとなりつつある。また、がん対策基本法（平成18年法律第98号）の下、政府が策定したがん対策推進基本計画（平成24年6月）においても、がんの予防の推進を図るため、学校において児童または生徒ががんに関する正しい知識について理解を深めるための教育に関する施策を講じることが記載されており、がん教育の充実が求められている。

本単元は、がんは身近な病気であるということを理解させ、予防や早期発見・検診についての関心を持ち、正しい知識を身に付けた上で適切な対処ができるようになるとともに、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資することを目標としている。

### 3 生徒の実態

#### (1) 一般的な生徒の実態

本学級は明るく和やかな雰囲気であり、学習に対して前向きに取り組む生徒も多くみられ、授業中の発表も多い。また、小学生の時から、小グループによる学び合い学習を積み重ねて実施しているため、男女区別なく協力して課題に取り組むことができる。

保健体育における保健分野の授業に対する関心はおおむね高く、積極的に学ぼうとする生徒が多く、基礎的な知識の定着度は高い。しかし、その反面、生活習慣の乱れている生徒もおり、知識の活用に関しては課題がある。

(2) 本単元に関わる生徒の実態（アンケート調査から）

8月に行った、がんに関するアンケートの結果は以下のとおりである。

① がんに関する学習について

質問	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	25	7	0	0
がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。	23	9	0	0

② がんに関する知識について

質問	正しい	誤り
がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	31	1
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	32	0
がんは日本人の死因の第2位である。	7	25
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	29	3
早期発見すればがんは治りやすい。	30	2
体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	1	31
がんの治療法には手術治療しかない。	5	27
がんの痛みは我慢するしかない。	4	28

③ がんに対する意識について

質問	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない
自分はがんにならないと思う。	5	10	2	12
将来、たばこは吸わないでいようと思う。	30	0	1	1
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	15	16	1	0
がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う。	18	8	3	3
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	6	11	8	7
がんになっても生活の質を高めることができる。	4	10	11	7
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたいたい。	19	12	0	0
がんと健康について、まずは身近な家族から語り合おうと思う。	15	13	1	3
家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	31	1	0	0
長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	26	5	1	0

※8月29日32名実施

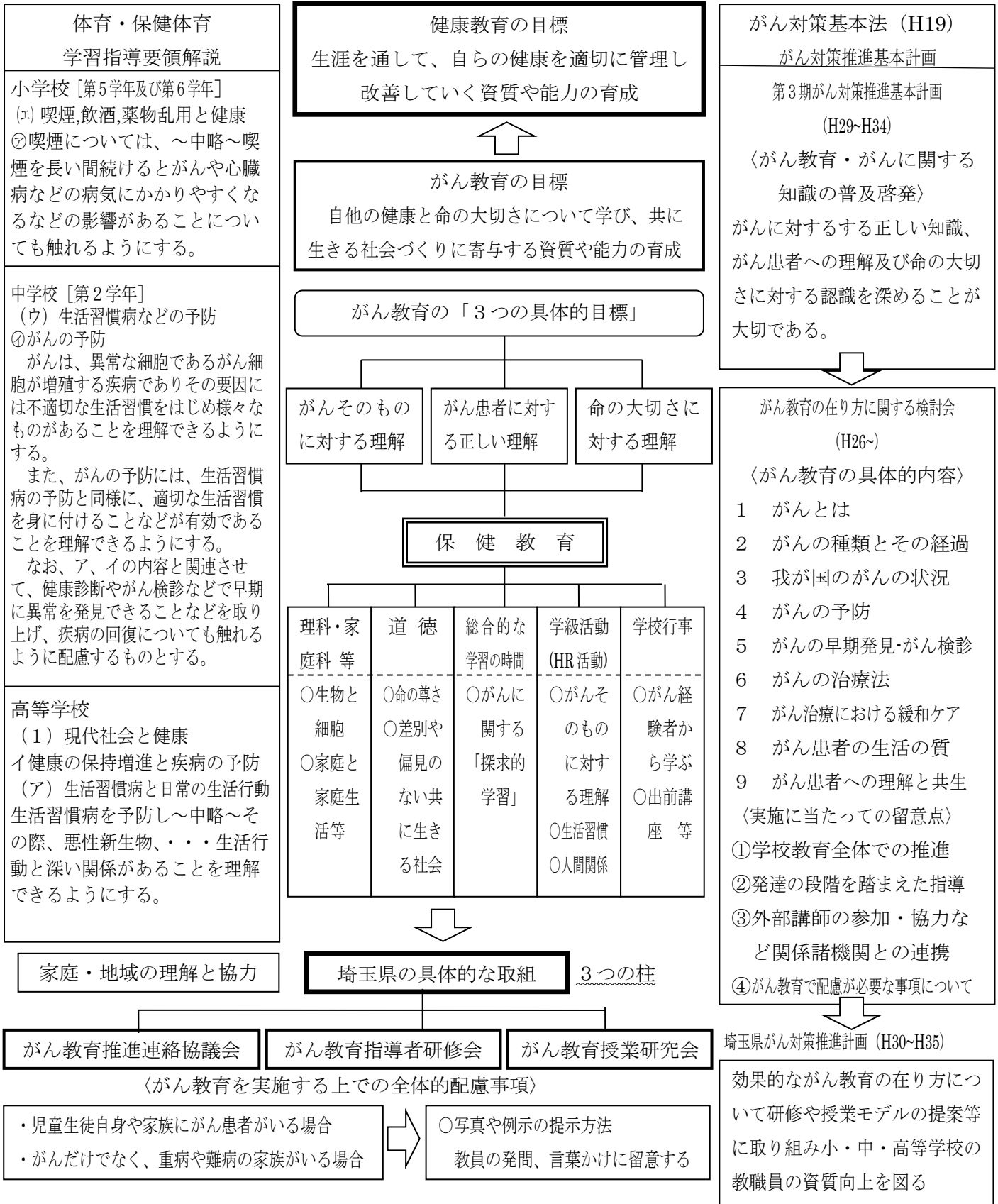
がんの学習について、「重要だと思う」と回答している生徒が、78.1%、「役立つと思う」と回答している生徒が 71.8%であり、「どちらかというと思う」と回答している生徒を含めると、すべての生徒ががんの学習について肯定的回答をしていた。がんに関する知識については、おおむね正しい回答をしているが、「日本人の死因の順位」、「治療法」については、ほかの設問と比較し、誤答が多かった。

ほとんどの生徒が「がんは誰でもかかる可能性がある病気である」と回答しているが、約半数が「自分はがんにならないと思う」と回答している。また、18.6%の生徒が「将来、検診を受けない。」と回答している。

以上の結果から、がんに対してある程度正しい知識を身に付けている生徒が多いものの、自分自身の生活とは無関係だと思っている生徒もいることがわかった。

4 教師の指導観

埼玉県「がん教育全体計画」抜粋



埼玉県「がん教育全体計画」をもとに、本単元の特性と生徒の実態から、以下のような授業を展開したい。

- ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業
- ・よりよい生活行動・生活習慣について、知識を活用した学習活動により、思考を促す授業
- ・生活習慣病とその予防方法、がん検診の必要性について正しい知識が身に付き、理解が深まる授業

これらの授業を実現するための具体策を以下に示す。

○特別活動・道徳の授業との連携

がん教育は、保健体育の授業のみならず、他教科等との連携を強めながら、生徒の生活改善・実践意欲の向上につなげることが重要である。

事後指導として学級活動では、「がん患者への理解と共生」について、外部講師と連携して指導を行う。道徳の授業では、「和田真由美さんの手記」をもとに、生命の尊さについて担任が授業を実施する。

○養護教諭との連携（チームティーチング）

がんに関する科学的根拠に基づいた知識などの専門的な内容を含むがん教育を進めるために、養護教諭と連携して授業を実施する。

○「がん教育推進のための教材（文部科学省）」の活用

基礎的知識を正しく習得させるために文部科学省が作成した「がん教育推進のための教材 指導参考資料」中学生・高校生版「スライド教材」を積極的に取り入れて、ICTを活用する。

○外部講師の活用

外部講師から、がんと向き合う人々の話を聞き、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る。

○身近にがん経験者がいる生徒への配慮

身近にがん経験者がいる場合は、事前に面談を行い、授業概要を説明し、途中で辛くなった場合は離席してもよい旨を伝えた。

5 単元の目標

- (1) 生活行動・生活習慣と健康について関心をもち、学習活動に積極的に取り組むことができるようにする。 【関心・意欲・態度】
- (2) 生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。 【思考・判断】
- (3) 生活行動・生活習慣と健康について、基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解できるようにする。 【知識・理解】

6 単元及び学習活動に即した評価規準

	ア 健康・安全への関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての思考・判断	ウ 健康・安全についての知識・理解
評価規準	生活行動・生活習慣と健康について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	生活行動・生活習慣と健康について、基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解している。
学習活動に即した評価規準	① 健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ② 課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	① 健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ② 学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	① 食生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ② 運動と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ③ 休養及び睡眠と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ④ 調和のとれた生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ⑤ がんの発生要因とその予防について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ⑥ がん検診の大切さについて理解したことを言ったり、書き出したりしている。



7 単元の指導と評価の計画【6時間扱い+2時間（特別活動・道徳）】 本時は○印6／6時

【保健体育（保健分野）】

時	学習のねらい・活動	関	思	知	評価方法
1 食生活と健康	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組むことができる。</li> <li>食生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。</li> </ul> <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康を保持増進するための食生活について考える。</li> <li>健康を保持増進するための食事や配慮すべきこと、運動に応じたエネルギーの補給について説明を聞く。</li> <li>自分の食生活について考える。</li> <li>本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康な生活や疾病の予防には、毎日適切な時間に食事をすることが必要であること。</li> <li>年齢や運動量に応じて栄養素のバランスや食事の量などに配慮することが必要であること。</li> <li>運動によって消費されたエネルギーを食事によって補給することが必要であること。</li> </ul> </div>	①		①	<p>〈関・意・態①〉 (学習活動3) 健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【観察】</p> <p>〈知・理①〉 (学習活動4) 食生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。【観察・ワークシート】</p>
2 運動と健康	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。</li> <li>運動と健康について理解したことを言ったり、書き出したることができる。</li> </ul> <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>運動不足が体に及ぼす影響について考える。</li> <li>運動が心に及ぼす影響について考える。</li> <li>運動の効果（身体面・精神面）と健康の保持増進のための適切な運動について説明を聞く。</li> <li>自分の生活（運動量など）について考える。</li> <li>本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動には、身体の各器官の機能を刺激し、その発達を促すとともに、気分転換が図られるなど、精神的にもよい効果があること。</li> <li>健康な生活や疾病の予防には、日常生活において適切な運動を継続することが必要であること。</li> </ul> </div>		②	②	<p>〈思・判②〉 (学習活動4) 学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。【ワークシート】</p> <p>〈知・理②〉 (学習活動5) 運動と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。【観察・ワークシート】</p>

<p>3 休養及び睡眠と健康</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。</li> <li>・休養及び睡眠と健康について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。</li> </ul> <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 疲労が心身に及ぼす影響について考える。</li> <li>2 心身の疲労を回復する方法について考える。</li> <li>3 休養及び睡眠の効果ならびに健康の保持増進のための適切な休養及び睡眠について説明を聞く。</li> <li>4 自分の生活における休養や睡眠のとり方について考える。</li> <li>5 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間にわたる学習、運動、作業は、疲労やストレスをもたらし、心身の不調や病気を引き起こすこと。</li> <li>・健康な生活や疾病の予防には、休養及び睡眠によって心身の疲労を回復することが必要であること。</li> </ul> </div>		<p>②</p>	<p>③</p>	<p>〈思・判②〉 (学習活動4) 学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 【ワークシート】</p> <p>〈知・理③〉 (学習活動5) 休養及び睡眠と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 【観察・ワークシート】</p>
<p>4 調和の取れた生活と生活習慣病</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明することができる。</li> <li>・調和のとれた生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。</li> </ul> <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 望ましい生活習慣について考える。</li> <li>2 健康と生活習慣の関連、調和のとれた生活の必要性、生活習慣の乱れによる生活習慣病など、生活習慣が健康に及ぼす影響について説明を聞く。</li> <li>3 今後、実践できる生活習慣の改善について考え、発表する。</li> <li>4 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の健康は生活行動と深くかかわっており、健康を保持増進するためには、年齢、生活環境等に応じた食事、適切な運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であること。</li> <li>・食生活の乱れ、運動不足、睡眠時間の減少などの不適切な生活習慣は、やせや肥満などを引き起こしたり、生活習慣病を引き起こす要因となったりし、生涯にわたる心身の健康に様々な影響があること。</li> </ul> </div>		<p>①</p>	<p>④</p>	<p>〈思・判①〉 (学習活動3) 健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 【ワークシート】</p> <p>〈知・理④〉 (学習活動4) 調和のとれた生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 【観察・ワークシート】</p>

<p>5 がんの発生要因と予防①</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組むことができる。</li> <li>がんの発生要因とその予防について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。</li> </ul> <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>インターネットや書籍を用いて、がんの発生要因や予防法について調べる。</li> <li>調べた内容をワークシートにまとめる。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>がんは異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること。</li> <li>がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であること。</li> </ul> </div>	<p>①</p>	<p>⑤</p>	<p>〈関・意・態①〉 (学習活動①) 健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【観察】 〈知・理⑤〉 (学習活動2) がんの発生要因とその予防について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 【観察・ワークシート】</p>
<p>⑥ がんの発生要因と予防②</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題の解決にむけての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。</li> <li>がんの発生要因とその予防について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。</li> <li>がん検診の大切さについて理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。</li> </ul> <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>前時までに学習した内容をもとに、選択式の問題を解く。</li> <li>がんの要因について話を聞く。</li> <li>がんは「予防することができるのか」考え、グループで意見交換を行う。</li> <li>がん検診の意義について話を聞く。</li> <li>がん検診の勧め方を考える。</li> <li>本時の学習を振り返る。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>がんは異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること。</li> <li>がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であること。</li> <li>がんは健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できること。</li> </ul> </div>	<p>②</p>	<p>⑤ ⑥</p>	<p>〈関・意・態②〉 (学習活動3) 課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【観察】 〈知・理⑤〉 (学習活動2) がんの発生要因とその予防について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 〈知・理⑥〉 (学習活動5) がん検診の大切さについて理解したことを、言ったり書き出したりしている。 【観察・ワークシート】</p>

事後指導 【特別活動（11月） 道徳（1月）】

	学習のねらい・活動	留意点・評価
特別活動	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん患者や家族の思いや悩みに気づき、望ましい関わり方について考え、理解することができるようにする。</li> </ul> <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健体育（保健分野）におけるがんに関する内容を復習する。</li> <li>2 ゲストティーチャー（医療従事者）の話を聞く。</li> <li>3 ゲストティーチャー（医療従事者）の話をもとに、がん患者への理解と共生について考える。</li> <li>4 本時の振り返りをする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近にがん経験者がいる生徒には事前に声がけをするとともに、授業中も観察し、十分配慮する。</li> <li>○保健体育（保健分野）におけるがんに関する事項を確認しながら、正しい知識が、がん患者への正しい理解や関わり方につながることを伝える。</li> </ul>

	学習のねらい・活動	留意点・評価
道徳 和田真由美さんの手記	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の命は有限であり、かけがえのないものであることを理解し、生命を尊重する態度を育てる。</li> </ul> <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「骨髄性白血病」「ドナー」「治療」について知る</li> <li>2 資料「和田真由美さんの手記」を読む。</li> <li>3 病気を宣告された時の気持ち、治療中の心の変化について考える。</li> <li>4 病気を乗り越えた後、和田さんがどのように生きているか学ぶ。</li> <li>5 命について考えたことをまとめる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近にがん経験者がいる生徒には事前に声がけをするとともに、授業中も観察し、十分配慮する。</li> <li>○人の命は有限であり、かけがえのないものであることを理解できたか。</li> <li>○自分とのかかわりで、生命を尊重することをとらえられたか。</li> </ul>

8 本時の学習と指導（6／6）

(1) ねらい


- ・課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。  
【関心・意欲・態度】
- ・がんの発生要因とその予防についてについて理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。  
【知識・理解】
- ・がん検診の大切さについて理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。  
【知識・理解】


(2) 準備

- ・ワークシート ・パソコン ・移動式スクリーン ・ホワイトボード ・掲示資料
- ・ホワイトボード用ペン ・付箋紙

(3) 展開


時間	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 5分	1 前時までに学習した内容をもとに、選択式の問題を解く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前までの学習の理解度を確認する。（T1）</li> <li>○がんの認識として間違いやすい、知らないであろう内容を問題にし、興味関心を引き出させるようにする。</li> <li>○個人で回答を記入させる。</li> <li>○生徒の反応を観察する。（T2）</li> </ul>
	2 本時の学習内容を知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">がんを正しく理解し、がんを予防するために、何ができるか考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の目的や学習内容、学習計画について理解させる。</li> </ul>


<p>展開 I 25分</p>	<p>3 がんの要因について話を聞く。</p> 	<p>○問題の答え合わせをしながら、パワーポイントの画面をもとに説明を行う。(T 2) ○がんの要因について正しく理解させるとともに、自分の身近な問題であることに気付かせる。 ○がんの発生に生活習慣がかかっていることに気づかせる。</p>
<p>&lt;指導すべき内容&gt; ・がんは異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること。</p>		
	<p>4 がんは「予防することができる」のか、「予防することができない」のか考える。 ①ワークシートに○を付ける。 ②グループで話し合う。 ③がん予防に有効とされる生活習慣についてグループで話し合い、ワークシートに書き出す。</p>	<p>○前時の調べ学習の資料をもとに、グループ内で自分の意見を発表させる。(T 1) ○机間指導を行う。(T 1・T 2) ○補足説明を行う。(T 2) ○グループで話し合った内容をもとに、ワークシートを記入させる。(T 1) ○補足説明を行う。(T 2) ◆がんの発生要因とその予防について理解したことを、言ったり書き出したりしている。 【知識・理解】 ◆課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】</p> <div data-bbox="770 1093 1430 1402" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「努力を要すると判断される状況」(C)の生徒への手立て(支援) 話し合いに参加できない生徒には、調べ学習の資料から発表内容を確認させる。</p> <p>「十分満足できると判断される状況」(A)の生徒の具体的な姿 自分の考えをまとめ、しっかりと発表できる。人の考えも理解している。</p> </div>
<p>展開 II 15分</p>	<p>5 がん検診の意義について話を聞く。</p> <div data-bbox="252 1659 1404 1823" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;指導すべき内容&gt; ・がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であること。 ・がんは健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できること。</p> </div> <p>6 がん検診の種類についてグループで話し合い、ワークシートに書き出す。</p> <p>7 未来の自分にはがん検診の大切さをどのように伝えるか考える。</p>	<p>○問題の答え合わせをしながら、パワーポイントの画面をもとに説明を行う。(T 2) ○がんは自覚症状の出にくい病気のため、早期に発見するためには、がん検診を適切に受けることが重要であることに気づかせる。</p> <p>○グループで話し合い活動をさせ、ワークシートに書き出させる。(T 1) ○検診の種類について説明する(T 2)</p> <p>○実際には6割の人ががん検診を受けていない現状を再確認させる。(T 2)</p>


<p>展開Ⅱ</p> <p>15分</p>	<p>① ワークシートに自分の意見を書く。</p> <p>② 各グループで発表し、話し合う。</p> 	<p>○未来の自分にがん検診の大切さをどのように伝えるか考えさせる。</p> <p>○各自の意見をワークシートに書かせる。(T1)</p> <p>○机間指導を行い、本時の学習内容をもとに話し合いを行っているか確認する。</p> <p>○キーワードになる言葉をワークシートに記入させる(T1)</p> <p>◆がん検診の大切さについて理解したことを、言ったり書き出したりしている。【知識・理解】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「努力を要すると判断される状況」(C)の生徒への手立て(支援) 板書やワークシートを参考に本時の学習内容を振り返りながら、記入させるようにする。</p> <p>「十分満足できると判断される状況」(A)の生徒の具体的な姿 がんを早期に発見するためにはがん検診を受けることが有効であることをもとに言ったり、書き出したりしている。</p> </div>
<p>終末</p> <p>5分</p>	<p>8 代表生徒がキーワードを発表する。</p> <p>9 教師の話を聞く。</p>	<p>○代表の生徒にキーワードを発表させる。(T1)</p> <p>○本時のまとめを行い、がんを予防するための望ましい生活習慣と検診の必要性について再確認する。(T1)</p> <p>○ワークシートを回収し、まとめた内容についての補足や指導の必要な生徒には、個別に指導する。(T1・T2)</p>

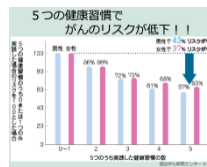
(4) 板書計画

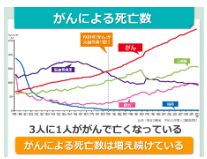
がんを正しく理解し、がんを予防するために、何ができるか考えよう。




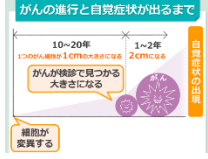


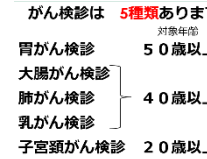


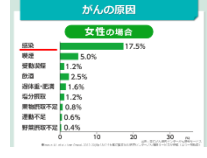


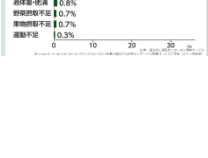












NO.1

がんを正しく理解し、予防するために、何ができるか考えよう

3年 組 番

- 「がん細胞」は大人の体の中で一日どれくらいできているでしょう。  
A 1000個以上 B 10個以上 C 0個
- 日本人で「がん」にかかる人の割合は、何人に1人でしょう。  
A 100人に1人 B 10人に1人 C 5人に1人 D 2人に1人
- 日本で、最も死亡数の多い「がん」は次のうちどれでしょう。  
A 肺がん B 胃がん C 大腸がん D 乳がん
- がんにかかる原因は次のうちどれでしょう。  
A 生活習慣 B 細菌感染・ウイルス感染 C 持って生まれた体質
- 1個のがん細胞が、直径1cm程度の塊になるには10年から20年かかります。その後、2cm程度の大きさになるのは何年後でしょう。  
A 1～2年 B 5～10年 C 10～20年 D 30年以上
- 「がん」を早期発見するにはどうしたらよいでしょう。  
A 自覚症状が出たらすぐ受診する B がん検診を受ける
- 日本における「がん検診」受診率は、何%でしょう。  
A 30%前後 B 40%前後 C 60%前後 D 80%前後

がんは予防できる

1

がんは予防できない

2

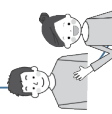
がん予防に有効とされる生活習慣


3

がん検診にはどんな種類があるか書き出してみよう。

4

今日、学習したことを生かして  
未来の自分にごがん検診の大切さを伝えよう





がん検診の大切さを伝えるキーワード

○自己評価をしよう

評価項目	評価
意欲的に活動に取り組んだ。	A B C
積極的に話し合い活動に参加した。	A B C
がんの予防方法について理解できた。	A B C



## 平成30年度がん教育授業研究会（鶴ヶ島市立南中学校）アンケート結果

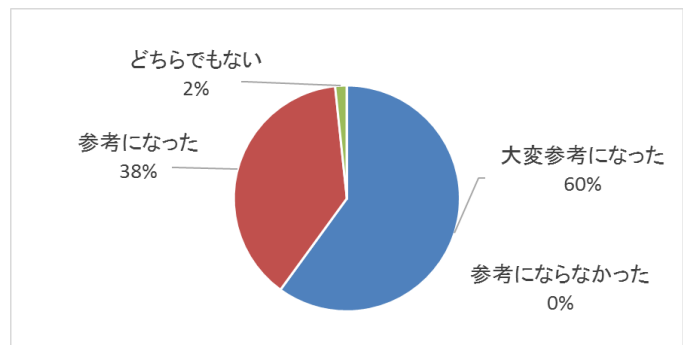
### 【本日の授業研究会の内容について】

「大変参考になった」「参考になった」

<理由>

#### ○授業内容について

- ・1時間にもかかわらず、充実した内容でも勉強になった。
- ・調べ学習が効果的に生かされ、養護教諭の説明も言葉が精選されていて、わかりやすく参考になった。
- ・知識の理解というベースをしっかり固めたうえでグループワークを行うことで、活発な話し合いができていた。
- ・生活習慣による予防と検診による早期発見というキーワードがはっきりしていて、最後までキーワードを発表するというおさえ方が参考になった。
- ・話し合いで、生徒が調べたことを基にして、自分の意見を伝えているのが素晴らしかった。
- ・事後のゲストティーチャーの活用もどのように行われるのか気になる。
- ・事前に調べたがんについてのレポートが参考になった。
- ・生徒の活動が多くあり、すばらしい。将来へとつながっていく授業だったと思う。
- ・「予防できる」「予防できない」を考えると、目で見て予防できることが伝わり、わかりやすかった。
- ・まとめのキーワードの中に、中学生でもがんを自分とは関係のないことととらえず、将来しっかり予防していくというような言葉が出ていた。
- ・学習させる内容が多いので、調べ学習や授業、話し合い活動などを組み合わせることでこのように効果的に進めていくことができるのだと感じた。
- ・知識を確実に身に付けさせるという目的に合致していた。
- ・配慮を要する生徒へのはじめの声掛けがとても重要だと感じた。
- ・昨年度の内容とはまた違う構成であり、検診の大切さにポイントを当てていたのがよかった。
- ・中学生という健康な生徒たちを相手に、がんという遠い存在をいかに身近に引き寄せるかということが重要だと感じた。
- ・グループでの意見交換が印象に残り、未来の自分に対するメッセージを書く中で、さらに大切なキーワードを選び出すことも有効であることを学ばせてもらった。
- ・中学校で指導する内容がわかり、その前の小学校ではどの程度の事を扱うべきかを考えるヒントをいただいた。
- ・間違った知識をもっている生徒もいるため、こうした授業で正しい知識を身に付け、がんで苦しむ人を少しでも減らすことが大切だと感じた。
- ・飲酒喫煙はハイリスクであり、望ましい生活習慣を送ることがよいことを、今までの保健の学習と結びつけて考えられていた。
- ・未来の自分に向けてがん検診の大切さについて伝える活動はがん教育の本質であると思う。
- ・個人で考える時間、グループで意見交換する時間、全体で確認する時間があり、メリハリがあった。
- ・今回の授業では、がんについて扱う内容やどこまで掘り下げていくかが精選されており、大変参考になった。
- ・授業者のお二人の授業展開は歯切れがよく、テンポもよく、生徒にとってわかりやすい内容だった。また、余計なことを省き、ポイントとなるキーワードをおさええていたので、記憶に残りやすい。
- ・主体的、対話的で深い学びのためには生徒の声を聴き、その声を拾い、つなぐことが学びになると思う。
- ・ねらいがしっかりとしており、まとめの段階で本時のねらいを確認していた。
- ・人に教えることが記憶に残ることなので、本時でも友達に説明する活動があり、とてもよかった。



#### ○TTについて

- ・忍田先生が生徒の様子を観察しながら進行し、高沢先生がグラフなどで根拠を示しながら説明されていたので、説得力のある内容だと思った。T1、T2の役割分担がよく行われていた。
- ・養護教諭が落ち着いた授業をされていたので同じ立場として、とても素晴らしいと思った。
- ・自分の授業でも養護教諭と連携していけたらいいと思った。
- ・養護教諭が専門的な説明をすることにより、考えるとき、聞くとき、と授業にメリハリが出ていた。



- ・養護教諭が専門的な立場から話をするので、説得力が生まれ、生徒の安心感へとつながると思った。
- ・養護教諭は授業に参加するだけでなく、がんに関する資料を集めたり、スライドの作成などを行ったりもできると思った。
- ・事後指導として、特別活動でも扱う計画になっていて、知識のみに終わらずに学ぶ計画が素晴らしいと思った。

#### ○生徒について

- ・これだけの参会者の中で、生徒は緊張しながらも積極的に取り組む姿勢が見られたのは、先生の普段の御指導と生徒との良好な関係があるからだと思う。
- ・ねらいに沿ってよく考えていた。早期発見、検診の大切さを理解していた。
- ・グループの中で小さな声ではあるが、意見を重ねていた。
- ・事前のそれぞれが調べたがんについての調べ学習の内容が深くて驚いた。

#### ○教材・教具について

- ・説明に使っていたスライドやワークシートはとても参考になった。
- ・市で行われているがん検診の案内やパンフレットを提示すると説得力が増すと思った。
- ・スライド資料がわかりやすかった。
- ・小テストの確認もできていてよかった。
- ・選択問題を活用することで、生徒が考えながら楽しく授業を行うことができていた。
- ・教員の板書時間を短縮することで、生徒の活動時間を確保できていたので、内容がとても濃かった。スライドで使った内容をホワイトボードに貼ることで後からも確認できるので、とてもよかった。
- ・最初に出したクイズの答え合わせをする形で説明していたのが分かりやすかった。

#### ○ワークシートについて

- ・設問の順序が非常によく組み立てられていたため、スムーズな流れの中でがん教育への理解が深まっていた。

#### ○研究協議について

- ・他校の実践を知ることができて良かった。

#### 【がんに関する授業を実施するにあたっての課題】

- ・学校全体の共通理解、体育科教員と養護教諭の連携・共通理解
- ・差別や偏見などへの対応を含めた他教科との関連と総合的な指導
- ・授業時数の確保
- ・生徒への配慮（小児がんを患っている児童、がんで治療中の保護者がいる場合、身近な人ががんで亡くなっている場合等）
- ・生徒にがんが身近な問題であると認識させること、自分の事として考えていけるようにすること
- ・ゲストティーチャーの活用、打合せ
- ・予防を心掛けているにもかかわらず原因不明でがんにかかってしまうことがあることを伝える必要があると感じた。（がんになってしまった人が予防をしていなかったようになってしまわないようにしたい）
- ・自分の事としてとらえること
- ・常に最新の情報を入手すること
- ・小・中・高等学校の連携
- ・がんやがん教育についての知識の不足（教員自身）
- ・保護者からの理解と協力
- ・重点をどこに置いて指導するか
- ・がん教育についての出張が養護教諭に回ってくることが多いが、やはり体育科の意識改革が重要だと思うので、体育科の教員にぜひ参加してもらいたい。
- ・年間指導計画への位置づけ（教育課程への位置づけ）
- ・教科等横断的に取り組んでいくこと
- ・指導内容の精選
- ・特別支援学校では疾病を患っている生徒が多く、授業の際には相応の配慮が必要

### Ⅲ 平成30年度埼玉県がん教育授業研究会

#### 3 県立飯能高等学校

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

#### 平成30年度埼玉県「がん教育」授業研究会（高等学校）実施要項

##### 1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 平成30年11月27日（火）

4 会 場 県立飯能高等学校 飯能市本町17-13  
\*駐車場がありません。公共交通機関で来校願います。  
（西武線 飯能駅下車 徒歩12分）  
（JR川越線 東飯能駅下車 徒歩15分）

5 参加対象者 高等学校・特別支援学校教職員（保健体育科、養護教諭、保健主事等）

##### 6 日 程

- (1) 受 付 13時00分～ ( HR 棟入口 )
- (2) 公開授業 13時35分～14時25分 ( 視聴覚室 )
- (3) 全体会 14時40分～15時00分 ( 会議室 )
- (4) 研究協議 15時00分～16時30分 ( 会議室 )

##### 7 公開授業

学年	授業者	単元名
2年	梅田 直希 教諭	保健体育（科目保健） （2）「生涯を通じる健康」 イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

##### 8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	課 長	伊藤 治也
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主席指導主事	駒崎 弘匡
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指 導 主 事	馬場久美子

埼玉県がん教育授業検討委員会委員

埼玉大学教育学部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	准 教 授	儀賀 理暁
県立川口北高等学校	教 諭	平賀 誠司
県立杉戸農業高等学校	養 護 教 諭	米本 真弓
県立けやき特別支援学校	養 護 教 諭	川端 奏子

1 単元名 「(2) 生涯を通じる健康」 イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関  
(イ) 地域の保健・医療機関の活用

2 単元について

本単元では、生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにすることが目標である。また、「イ 保健。医療制度及び地域の保健・医療機関」では、以下の学習内容を生徒に理解させる。

- ①生涯を通じて健康の保持増進をするには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であること。
- ②医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。
- ③疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること。

3 生徒の実態

明るく素直な生徒が多く、授業に落ち着いて取り組むことが出来る。ICTを用いた授業では、映像や画像などが映し出されるため興味・関心をもち、学習している。その反面、学習意欲の乏しい生徒もおり、苦手意識の克服や授業内で生徒に主体的な学びを促していくことが課題と言える。医療制度に関するニュースや保健に関する情報に触れる機会はほとんど無く、本単元においても支援を要する生徒が複数いることが考えられる。

がんについての既知知識はほとんど無いものの親族でがんを罹患した生徒は複数見られる。このことから、授業内で学ぶ事だけでなく、そういった生徒への精神的ケアを要することも予想される。

4 教師の指導観

近年、都市化、少子高齢化、情報化、国際化などにより社会環境や我々の生活環境は大きく変化した。それに伴い、多くの課題が顕在化する中で、生涯のうち国民の二人に一人がかかると推測されるがんは重要な課題である。がん教育の目標である、『がんについて正しく理解することができるようにする』『健康と命の大切さについて主体的に考える事ができるようにする』を達成するため、以下の4点を挙げる。

I：指導内容の明確化

がん教育で掲げられている具体的な内容の中から、『がんとは(がんの要因等)』『がんの早期発見・がん検診』『がんの治療法』を取り上げる。具体的な統計データ、県内のがん診療連携拠点病院等を取り上げ、がんを罹患した際取るべき行動を考えさせる。

II：教材の工夫

ICT機器を活用し生徒が授業の中で学ぶべき点と学んでいる内容を提示する。また、「がん教育推進のための教材 指導参考資料」中学生・高校生版を取り入れていく。

III：学習内容を主体的に取り組ませるための活動

習得した知識を発言・記述したりする機会を適宜設けていく。その際に、個人での活動ではなくグループで取り組みせ、他の生徒の発言や考えを聞く時間も作る。資料を配付し、その資料から読み取れることをディスカッションする時間を設けることで、生徒が主体的に学べるようにする。

IV：身近にがん経験者がいる生徒への配慮

事前アンケートや担任等への聞き取り等から、生徒の身近にがん経験者がいる場合には、養護教諭との連携を図りアフターケアを行う。授業後に精神的不安が見られる場合や、不調を訴える生徒がいた場合には養護教諭やスクールカウンセラーを含めたケアをしていく。

5 単元目標

- (1) 健康課題への自らの適切な対応及び我が国の保健・医療制度や機関の適切な活用が重要であることに関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。【関心・意欲・態度】
- (2) 生涯の各段階における健康課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。【思考・判断】
- (3) 生涯の各段階における健康課題の解決に役立つ自らの適切な対応及び我が国の保健・医療制度や機関の適切な活用のための基礎的な事項を理解できるようにする。【知識・理解】

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の観点別評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価規準	健康課題への自らの適切な対応及び我が国の保健・医療制度や機関の適切な活用が重要であることに関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	生涯の各段階における健康課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。	生涯の各段階における健康課題の解決に役立つ自らの適切な対応及び我が国の保健・医療制度や機関の適切な活用のための基礎的な事項を理解している。
学習活動に即した評価規準	①我が国の保健・医療制度について、関連する資料を探したり、読みだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②地域の保健・医療機関の活用について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①我が国の保健・医療制度について、資料等で調べた事を基に、課題を自ら見つけたり、解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明している。 ②地域の保健・医療機関の活用について、学習したことを、個人及び社会生活と比較したり、分析したり、計画を立てたりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明している。	①がんの種類や原因、予防、治療法などについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 ②がんの予防と回復には、個人の取組とともに、社会的な対策が必要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。 ③生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることについて理解したことについて発言したり、記述したりしている。 ④医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 ⑤疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

(2) 単元の指導と評価の計画 本時は○印3/6時

時	学習のねらい・活動	関	思	知	評価方法
1 我が国の保健・医療制度ー	<p><b>I ねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の保健・医療制度について、関連する資料を探したり、読みだりするなどの学習活動に意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・我が国の保健・医療制度について、資料等で調べた事を基に、課題を自ら見つけたり、解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明することができる。</li> </ul> <p><b>II 学習活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 健康を保持増進のための制度を理解する。</li> <li>2 保健に関する活動、保健サービスについて理解する。</li> <li>3 自分の身近で行われている保健活動や保健サービスについて話し合い、考える。</li> <li>4 保健制度やサービスについて発表しまとめる。</li> </ol> <p><b>【指導すべき内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国には、人々の健康を守るための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから保健に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていること</li> </ul>				<p>〈関・意・態①〉 (学習活動2) 我が国の保健・医療制度について、関連する資料を探したり、読みだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている状況についてとらえる。【観察】 〈思・判①〉 (学習活動4) 我が国の保健・医療制度について、資料等で調べた事を基に、課題を自ら見つけたり、解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明している。 【ワークシート】</p>

<p>2 我が国の保健・医療制度Ⅱ</p>	<p><b>I ねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの種類や原因、予防、治療法などについて理解したことを発言したり、記述したりすることができる。</li> </ul> <p><b>II 学習活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「がん」とはどんなものかを知る。</li> <li>2 がんについての基礎的な知識を学ぶ。 (日本での現状・種類・治療・予防・検診など)</li> <li>3 がんの緩和ケアについて理解する。</li> <li>4 映像教材を視聴し、15年後に自分ができる予防・検診を考えてみる。</li> </ol> <p><b>【指導すべき内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和の取れた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診すること</li> <li>・がんは、様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあること</li> <li>・がんの回復においては、手術療法、化学療法、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であること</li> </ul>			<p>①</p>	<p>〈知・理①〉 (学習活動4)</p> <p>がんの種類や原因、予防、治療法などについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p><b>【観察・ワークシート】</b></p>
<p>3 我が国の保健・医療制度Ⅲ</p>	<p><b>I ねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の保健・医療機関の活用について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・がんの予防と回復には、個人の取組とともに、社会的な対策が必要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができる。</li> </ul> <p><b>II 学習活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「がん」に罹患することを前提に、どんな出合いを望むかを理由も含めて考える。(ステージ0～ステージ4まで)</li> <li>2 前時の復習(治療・予防・検診など)をする。</li> <li>3 日本の検診の現状や費用、種類などを提示し、各がんの生存率を理解する。</li> <li>4 学習活動1について再度考える。(がんとどんな出合いをしそうか?も含めて)</li> <li>5 自分や身の回りの人が、がんと良い出合いをするためにどんな行動を勧めるか。</li> </ol> <p><b>【指導すべき内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんのリスクを軽減し予防するには、定期的な健康診断やがん検診などを受診すること</li> <li>・がんの予防と回復には、個人の取組とともに、がん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であること</li> </ul>	<p>②</p>		<p>②</p>	<p>〈関・意・態②〉 (学習活動3)</p> <p>地域の保健・医療機関の活用について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p><b>【観察】</b></p> <p>②</p> <p>〈知・理②〉 (学習活動4)</p> <p>がんの予防と回復には、個人の取組とともに、社会的な対策が必要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p><b>【観察・ワークシート】</b></p>

<p>4 我が国の保健・医療制度Ⅳ</p>	<p><b>I ねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の保健・医療機関の活用について、学習したことを、個人及び社会生活と比較したり、分析したり、計画を立てたりすることができる。また、筋道を立ててそれらを説明することができる。</li> <li>生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることについて理解したことについて発言したり、記述したりしている。</li> </ul> <p><b>II 学習活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医療サービスの活用について話し合い、考える。</li> <li>自身が医療機関を選択する際の基準や理由について話し合い、考える。</li> <li>医療サービスを受ける際に、患者の権利について理解する。</li> <li>自身が医療サービスを受ける際に理想とするサービスについて話し合い、考える</li> </ol> <p><b>【指導すべき内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯を通じて健康を保持増進するには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所、保健センター、病院や診療所などの医療機関及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であること</li> </ul>		<p>②</p>	<p>③</p>	<p>〈思・判②〉 (学習活動2) 地域の保健・医療機関の活用について、学習したことを、個人及び社会生活と比較したり、分析したり、計画を立てたりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明している。 <b>【観察】</b> 〈知・理③〉 (学習活動4) 生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることについて理解したことについて発言したり、記述したりしている。 <b>【ワークシート】</b></p>
<p>5 地域の保健・医療機関の活用Ⅰ</p>	<p><b>I ねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品の販売には様々な審査があり、販売には制限があることについて理解したことを発言したり、記述したりすることができる。</li> </ul> <p><b>II 学習活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医療用医薬品と一般用医薬品について理解してまとめる。</li> <li>医薬品の承認制度について理解してまとめる。</li> <li>医薬品の販売には規制があることを理解する。</li> </ol> <p><b>【指導すべき内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品には、医療用医薬品と一般用医薬品があること</li> <li>医薬品は、承認制度により有効性や安全性が審査されていること</li> <li>医薬品の販売には規制があること</li> </ul>		<p>④</p>	<p>⑤</p>	<p>〈知・理④〉 (学習活動3) 医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 <b>【ワークシート】</b></p>
<p>6 地域の保健・医療機関の活用Ⅱ</p>	<p><b>I ねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができる。</li> </ul> <p><b>II 学習活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使う必要があることを理解する。</li> <li>医薬品には主作用と副作用があることを理解する。</li> <li>自身が知る副作用について考え、話し合う。</li> </ol> <p><b>【指導すべき内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であること</li> <li>副作用については予期できるものと、予期することが困難なものがあること。</li> </ul>		<p>⑤</p>	<p>⑤</p>	<p>〈知・理⑤〉 (学習活動1) 疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。 <b>【観察・ワークシート】</b></p>

7 本時の内容と指導（3／6）

(1) ねらい

- ・地域の保健・医療機関の活用について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】
- ・がんの予防と回復には、個人の取組とともに、社会的な対策が必要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができる。 【知識・理解】


(2) 資料及び準備するもの

スクリーン、プロジェクター、ノートパソコン、ワークシート、資料

(3) 展開

時間	学習の内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 10分	<p>1 本時のテーマを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">                         テーマ：がんと出会い                     </div> <p>2 「がん」に罹患することを前提に、どんな出会いを望むかを理由も含めて考える。(ステージ0～ステージ4まで) ※がんのステージについてはスライドで簡単に解説をする。</p> <p>3 前時の復習をする。</p> 	<p>○スライドで本時のテーマを明示し、生徒に確認させる。</p> <p>○全員にワークシートを配布し、自身が望むがんと出会いを記入させる。 ○机間巡視を行い、記入に悩む生徒の支援を行う。</p> <p>○スライドを用いて、前時の復習を行う。</p> 
展開 30分	<p>4 日本の検診の現状や費用、種類などを提示し、各がんの生存率を理解する。</p>	<p>○資料を配付するとともに、スライドを使いながら説明していく。 ○ワークシートを使いながら各項目を確認させる。</p> 



<p>展開 3 0 分</p>	 <p>5 将来自分はがんとどんな出合いを望むか（出合いをしそうか？）を理由も含めて考える。（ステージ0～ステージ4まで）</p> <p>※複数のグループを作り、他の生徒の意見も聞きながらまとめていく。その際に、検診等にかかる費用、検診等の受診率などの資料を配付しておく。</p> <p style="text-align: center;">（予想される回答） 授業導入時 → 授業後半</p> <p>①全く変化無し。 ②ステージ0 or 1 → ステージ2 or 3</p> <p>①については、その理由が分かるように記入を促す。「検診などの費用はかかるが、自分の健康のために受診しステージ1などで出会いたい」など ②についても同様に理由を明確にさせ、その変化に気付かせる。「生存率の高いステージ1などで出会いたい、お金の関係や自分の性格などでステージ3くらいで出合いそう。」</p>	<p>◆地域の保健・医療機関の活用について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「努力を要すると判断される状況」(C)の生徒への手立て(支援)話し合いに参加できない生徒には、資料やワークシートを見ながら発表内容を確認させる。</p> <p>「十分満足できると判断される状況」(A)の生徒の具体的な姿 自分の考えをまとめ、しっかりと発表できる。人の考えも理解している。</p> </div> <p>○本時の授業を経て、自身の考えの変化を記入させる。</p> <p>○個人で考えるのではなく、他の生徒との対話をするように促していく。</p> <p>○がんに関する各データをまとめた資料を配布し、机間巡視しながら学習の援助を行う。</p> <p>◆がんの予防と回復には、個人の取組とともに、社会的な対策が必要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p style="text-align: right;">【知識・理解】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「努力を要すると判断される状況」(C)の生徒への手立て(支援)前時や本時の資料やワークシートを確認し、理由を考えさせながら記入させる</p> <p>「十分満足できると判断される状況」(A)の生徒の具体的な姿 前時や本時で学習したことをもとに、自分の考えをまとめ、発言したり記述したりしている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【指導すべき内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんのリスクを軽減し予防するには、定期的な健康診断やがん検診などを受診すること</li> <li>・がんの予防と回復には、個人の取組とともに、がん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であること</li> </ul> </div>
<p>まとめ 1 0 分</p>	<p>6 自分の身の回りの人が、がんと良い出合いをするためにどんな言葉をかけてあげるか、またそのための新しい仕組みや取組を考える。</p> <p>7 がんの社会的対策についてまとめる。</p>	<p>○記入用紙を先程のグループに1枚配布して、考えをまとめさせる。</p> <p>○がんの社会的対策についてスライドで説明し理解させる。</p> <p>○スライドの内容をノートにまとめさせる。</p>



平成30年度がん教育授業研究会（飯能高等学校）アンケート結果

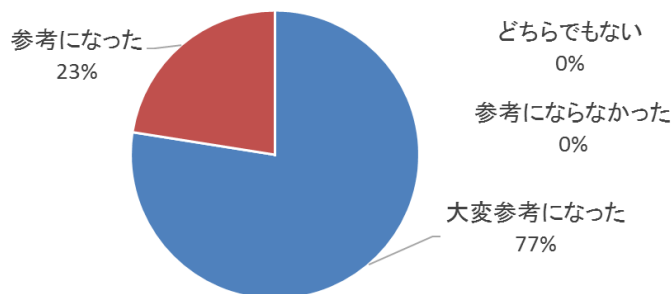
【本日の授業研究会の内容について】

「大変参考になった」「参考になった」

<理由>

○授業内容について

- ・情報量が多く、生徒理解も図れていて、発言が多いと感じた。
- ・自分自身もがんについて改めて考えさせられた。
- ・「がん」についての知識をしっかりとっていなければ指導することは難しいことを改めて感じた。
- ・がんについて学習をするうえで、検診や治療等をしっかりと学ばせるためには、生徒により実感をもたせることが一番だと思う。
- ・実際に「がん」が身近にある生徒でないといくら指導をしてもほとんどの生徒は忘れてしまう。高校生の段階では、「がん」についての知識、健康や命について考える一つのきっかけにしかならぬため、いかに関心をもたせるかが重要ではないかと思う。
- ・基本的な知識がある中で行われていたので、発展させながら授業が進められているように感じた。
- ・がんの授業を通し、「人とのつながり」や「お金の大切さ」も学ばせたいと思った。
- ・がんについて教えるということで、梅田先生がたくさん勉強をされていることが分かった。その中で、「今回調べて分かったんだ」「君は知っていたか？私も知らなかった」という言葉が度々あり、生徒と主に学んでいくという姿勢・対話が大変参考になった。
- ・保健・医療制度の範囲は生徒が興味をもちづらいところだが、梅田先生の導入で、生徒の心をつかみ、グループワークにもかかわらず、先生が説明する際には、前を向いている生徒が多く見られた。
- ・がんのステージ0～4からがん検診へのつながりが参考になった。
- ・導入のステージの説明が知らない生徒にとっても分かりやすかった。
- ・がんの実態に加えて、今後のがんに対する考え方や、どのように向き合っていくかというところまで最後に触れていたため、理解がより深まる内容であり、参考になった。
- ・テーマが興味を引くものであった。
- ・先生の生徒との関わり方が絶妙で参考になった。
- ・生徒が授業に入りやすい言葉のかけ方を参考にしたい。
- ・生徒の身近なことに触れながら授業を進めることで、自分にも関係することであることを実感させることができていると思った。
- ・がんについて適切な情報提供や二次予防についての勉強が必要だと感じた。保健の授業展開の参考にしたい。
- ・「お金」や「時間」をキーワードにして資料を読ませたり、知識を知識として終わらせたいように実践的な話をされたりして参考になった。
- ・授業全体がテンポよく生徒を飽きさせない展開だった。
- ・生徒にとってなかなか身近にとらえることが難しく、教師自身にとっても掘り下げづらい内容だが、今回の授業は、生徒にとってわかりやすい内容であったので、とても勉強になった。
- ・教える内容が多いが、スライドや資料が工夫されていてわかりやすい授業だった。
- ・がん検診の受診率の低さを数値で示して子供たちの関心を引き出し、子供たちが意欲的に活動していた。
- ・がんという病気を生徒たちが身近に感じることは難しいと思っていたが、教師自身ががんをどう考え、どう伝えるかで、生徒への響き方が変化すると感じた。
- ・授業を見させていただいて、学校全体で取り組む必要性を感じた。
- ・スライド資料で視覚的に伝える工夫や、生徒同士のコミュニケーションなど生徒のレベルに合った授業で参考にしたいと思った。
- ・がんになった前提で子供たちに考えさせているところが新鮮で参考になった。
- ・将来仕事をしているときにがんになる可能性があることや、社会で行われているサービス等に触れることで、少し先の将来につなげてより自分の事としてとらえられる気がした。
- ・10年後20年後にふと振り返ることのできる授業だと感じた。



- ・最後に一次予防、二次予防についても触れていて、授業のつながりが見えた。
- ・大切な人へどんな言葉をかけるかという場面で、大切な人を結婚している前提で言葉をかけている生徒を見て、生徒はいろいろ考えているのだなと思った。

### ○生徒について

- ・積極的で、健康と命の大切さを主体的に学ぶ授業であった。
- ・話し合いが活発で、それぞれが自分なりの言葉で表現していた。
- ・資料を見て、自分から意見を言おうとする努力が見られた。
- ・生き生きとありのままに授業を受けていた。

### ○教材・教具について

- ・今回の授業では、自分の住む地域での取組を知る手段として、スライド資料やリーフレットを使って工夫されていた。
- ・今回のように、教科書の内容だけではなく、自分で調べた情報や集めた資料等を授業の中で扱えたらいい。
- ・資料を袋に入れて管理する方法は、配布がスムーズであり、生徒にとっても便利だと思った。
- ・十分な情報量があり、生徒が活動しやすかった。
- ・ICT を用いて非常にテンポよく授業が展開されていた。
- ・資料が素晴らしかった。がんに限らず、保健の授業で自分が授業をするときに毎回このレベルで資料を作成できるかという点も難しい。
- ・ICT の使用や資料の工夫等、大変参考になった。
- ・細かい情報まで、情報収集していた。
- ・実際のパンフレットを使っているのが良かった。

### ○研究協議について

- ・養護教諭や医療関係者と話ができて、新しい気付きがあった。
- ・がんというものをどのように教えていくか、考えさせるかについて知ることができた。
- ・高等学校の実態や、がんに関する指導を充実させることの難しさについて知ることができた。
- ・様々な視点で話し合いができた。

### 【がんに関する授業を実施するにあたっての課題】

- ・生徒が身近に感じられるような事例や資料など、最新情報を提供すべきだと思う。
- ・全教職員ががん教育について関心をもてるよう啓発すべきだと思う。
- ・新しく、正しい情報を生徒に伝えることの難しさがある。教科書や付属の資料だけでは限界があるので、教える内容に差が出ないような取組が必要
- ・担当教員によって内容に差が出てしまうこと（評価についても）
- ・他教員との授業の進みをそろえること
- ・生徒への配慮（小児がんを患っている児童、身近な人ががんで亡くなっている場合、身近な人がり患している場合等）
- ・教員同士の連携
- ・生徒にがんが身近な問題であると認識させること、自分の事として考えていけるようにすること
- ・始まったばかりの教育なので、がんを材料に、医療保険制度、検診制度、医薬品の扱い、情報を取り入れることの有益性、健康のありがたさ、大切な人の存在などが学べればよいと思う。
- ・がんについての知識がある生徒とない生徒がいる中で、どこまで指導して何を理解させるかを明確にすること
- ・授業時数の確保
- ・高校生の関心・意欲・興味を引き出すような資料や内容の工夫
- ・スクールカウンセラー、養護教諭との連携
- ・教員自身の理解や知識の不足
- ・生徒にとってがんは、遠い未来の存在であり不治の病という認識があること
- ・主体的・対話的で深い学び
- ・その場だけで終わらない今後につながる指導

## IV 平成30年度埼玉県がん教育推進連絡協議会について

### 平成30年度埼玉県「がん教育推進連絡協議会」設置要綱

#### (設置)

第1条 学校におけるがん教育の充実を図るため、「がん教育推進連絡協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。

#### (事業)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事業を所掌する。

- (1) がん教育総合支援事業を推進するための支援体制の協議、検討
- (2) がん教育総合支援事業を推進するために係るその他の取組

#### (組織)

第3条 協議会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

- 2 協議会に委員長を置き、埼玉県教育局県立学校部保健体育課長をもって充てる。
- 3 協議会に副委員長を置き、委員の中から互選する。

#### (運営)

第4条 委員長は、協議会を総括する。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

#### (任期)

第5条 委員の任期は、平成31年2月28日までとする。

#### (会議)

第6条 委員長は、協議会を招集し、議長を務めるものとする。

- 2 委員長が必要と認めるときは、別表に掲げる者以外の県及び市町村等、関係機関の職員の出席を要請することができる。

#### (事務局)

第7条 協議会は、会務を処理するために、事務局を埼玉県教育局県立学校部保健体育課内に置く。

#### (経費)

第8条 協議会の経費は文部科学省から交付される委託経費をもって充てる。

#### (その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定めるものとする。

#### 附 則

この要綱は、平成30年6月4日から施行する。 ※国との契約の日とする。

別 表（第3条関係） 委員

学識経験者
医師
がん経験者
疾病対策課副課長
校長
教諭
養護教諭
市町村教育委員会指導主事
保健体育課長
保健体育課主席指導主事

# 平成30年度 がん教育総合支援事業

(文部科学省委託事業)

## 背景

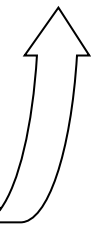
- ・「がん対策推進基本計画」では、「がん患者を含む国民が、がんを知り、がんと向き合い、がんに関わることに負けない社会」をめざすこととしている。
- ・学校における健康教育の中でも、国民の2人に1人がかかる「がん」について知ることが重要な課題であり、国民の健康に関する基礎的な教養として必要不可欠。

年間約36万人以上の国民ががんで死亡している。  
埼玉県のがん検診受診率が50%未満である。

## 課題

- ・がんについての正しい知識やがん患者に対する理解が不十分
- ・教材や外部講師を活用した指導の在り方、方法等の充実が必要

そこで、



**がん教育に関する計画を作成し、作成した計画に基づき、がんの教育に関する多様な取組を実施することにより、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識及び命の大切さに対する理解を深める。**

## がん教育推進連絡協議会

- ・ がんの教育に関する計画作成について指導・助言をする。  
(教科、授業展開方法の検討 ・ 外部講師の活用 ・ 関連機関との連携の模索等)
- ・ 取組結果について、成果を検証する。

※がんの教育連絡協議会に報告された実施結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会、県立学校等へ配布

【構成委員22名】

学校関係者、学校医、医療  
機関関係者、学識経験者、  
がん経験者、行政関係者等

## がん教育指導者研修会

○がん教育を推進していく教職員を対象とした「がん教育指導者研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方についての研修を行う。

## がん教育授業研究会

○小学校、中学校、高等学校において「がん教育授業研究会」を開催し、効果的な指導方法の検討と指導資料の作成及び授業モデルの普及を行う。

健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、  
がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識及び命の大切さに対する理解を深める。

## 2 平成30年度がん教育推進連絡協議会委員名簿

	推薦団体・推薦関係課・教育委員会	氏名	職名	所属
1	埼玉大学	七木田文彦	准教授	埼玉大学教育学部
2	一般社団法人 埼玉県医師会	丸木 雄一	医師	埼玉精神神経センター
3	がん専門医	儀賀 理暁	准教授	埼玉医科大学総合医療センター
4	がん経験者	近藤 明美	社会保険労務士	近藤社会保険労務士事務所
5	埼玉県小学校校長会	飯塚 義浩	校長	春日部市立粕壁小学校
6	埼玉県中学校校長会	竹之下 司	校長	嵐山町立玉ノ岡中学校
7	埼玉県高等学校長協会	梶尾 勝則	校長	県立草加高等学校
8	埼玉県小学校体育連盟	堀 祐介	教諭	鴻巣市立鴻巣南小学校
9	埼玉県中学校体育連盟	佐野 秀行	教諭	川口市立在家中学校
10	埼玉県高等学校保健体育研究会	梅田 直希	教諭	県立飯能高等学校
11	埼玉県養護教諭会	野上 弘恵	養護教諭	春日部市立豊春小学校
12	埼玉県養護教諭会	永島 志乃	養護教諭	久喜市立菖蒲中学校
13	埼玉県養護教諭会	米本 真弓	養護教諭	県立杉戸農業高等学校
14	埼玉県養護教諭会	川端 奏子	養護教諭	県立けやき特別支援学校
15	授業検討会代表（小学校）	渡辺 充範	指導主事	久喜市教育委員会指導課
16	授業検討会代表（中学校）	安達 隆元	指導主事	鶴ヶ島市立教育センター
17	授業検討会代表（高等学校）	平賀 誠司	教諭	県立川口北高等学校
18	県保健医療部疾病対策課	手塚 明正	副課長	県保健医療部疾病対策課
19	県立学校部保健体育課	伊藤 治也	課長	県教育局県立学校部保健体育課
20	県立学校部保健体育課	駒崎 弘匡	主席指導主事	県教育局県立学校部保健体育課

## 3 平成30年度がん教育授業検討委員名簿

○小学校、中学校、高等学校において、がん教育を具体的に展開するための内容等を検討する。

		氏名	職名	所属
1	埼玉大学	七木田文彦	准教授	埼玉大学教育学部
2	がん専門医	儀賀 理暁	准教授	埼玉医科大学総合医療センター
3	埼玉県小学校体育連盟	堀 祐介	教諭	鴻巣市立鴻巣南小学校
4	埼玉県中学校体育連盟	佐野 秀行	教諭	川口市立在家中学校
5	埼玉県養護教諭会	野上 弘恵	養護教諭	春日部市立豊春小学校
6	埼玉県養護教諭会	永島 志乃	養護教諭	久喜市立菖蒲中学校
7	埼玉県養護教諭会	米本 真弓	養護教諭	県立杉戸農業高等学校
8	埼玉県養護教諭会	川端 奏子	養護教諭	県立けやき特別支援学校
9	授業検討会代表（小学校）	渡辺 充範	指導主事	久喜市教育委員会指導課
10	授業検討会代表（中学校）	安達 隆元	指導主事	鶴ヶ島市立教育センター
11	授業検討会代表（高等学校）	平賀 誠司	教諭	県立川口北高等学校
12	授業研究者（小学校）	小島 宏之	教諭	久喜市立菖蒲小学校
13	授業研究者（中学校）	忍田 友子	教諭	鶴ヶ島市立南中学校
14		高沢 聖子	養護教諭	
15	授業研究者（高等学校）	梅田 直希	教諭	県立飯能高等学校